

平成24年度 自己点検・評価書

平成25年6月

公立大学法人福岡女子大学

法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人福岡女子大学
所在地	福岡県福岡市東区香住ヶ丘1-1-1
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
資本金の状況	4,837,765,597円(全額 福岡県出資)
沿 革	<p>大正12年(1923)4月 福岡県立女子専門学校開校(文科、家政科)</p> <p>昭和25年(1950)4月 福岡女子大学開学(学芸学部:国文学科、英文学科、生活科学科)</p> <p>昭和29年(1954)4月 文学部、家政学部の2学部体制に移行</p> <p>平成5年(1993)4月 大学院文学研究科修士課程設置</p> <p>平成7年(1995)4月 家政学部を人間環境学部に改組</p> <p>平成9年(1997)4月 大学院文学研究科英文学専攻博士課程設置</p> <p>平成12年(2000)4月 大学院人間環境学研究科修士課程設置</p> <p>平成18年(2006)4月 地方独立行政法人化。設置者が福岡県から公立大学法人福岡女子大学となる。</p> <p>平成23年(2011)4月 国際文理学部開設(国際教養学科、環境科学科、食・健康学科)</p>
法人の目標	<p>福岡女子大学は、時代や社会の変化に柔軟に対応できる豊かな知識と確かな判断力、しなやかな適応力を持ち、アジアや世界の視点に立って、国内はもとより、海外の国や地域において、より良い社会づくりに貢献することのできる女性を育成することを使命とする。</p> <p>特に、次の取組については、第Ⅱ期中期目標期間(平成24年4月1日～平成30年3月31日まで)6年間の重点事項とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文理学部の教育理念を実現するための新しい教育システムを構築する。 ・地域との交流・連携を積極的に推進するとともに、女性の生涯学習拠点としての機能を高める。 ・専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。 ・国内外で戦略的な広報活動を推進し、「福岡女子大学」ブランドを構築する。 <ol style="list-style-type: none"> 1 教育： グローバルな視点に立って国内外で幅広く活躍することができる女性を育成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある教育の展開 ・教員の教育能力の向上 ・意欲ある学生の確保 ・学生支援の充実 2 研究： 大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。 3 社会貢献： 大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。 4 業務運営： 理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。 5 財務： 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。 6 評価及び情報公開： 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。

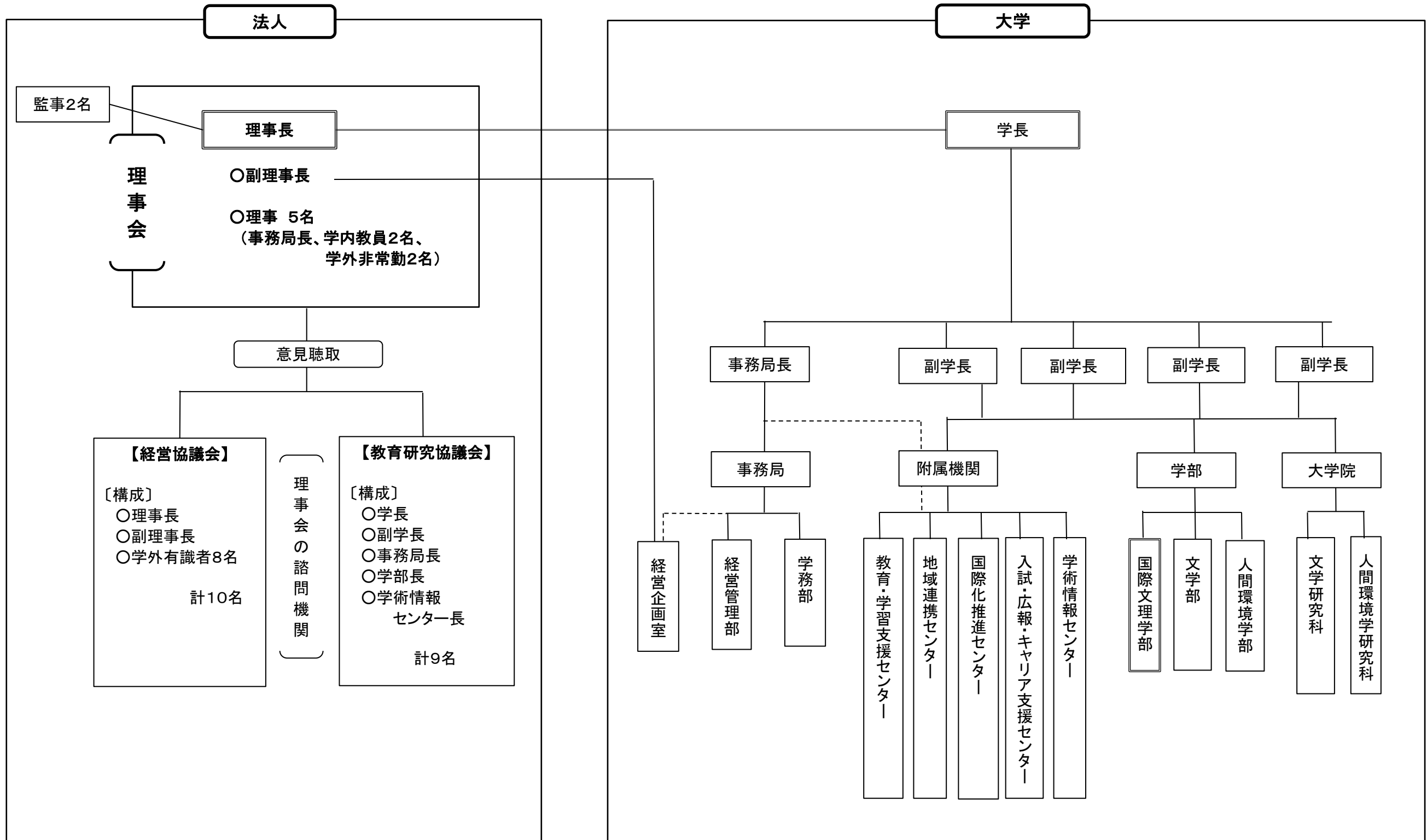
法人の業務	1 福岡女子大学を設置し、これを運営すること。 2 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。		
2. 組織・人員情報			
(1) 役員			
役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	梶山 千里	H23.4.1～H27.3.31	平成13年九州大学総長 平成16年国立大学法人九州大学総長 平成20年独立行政法人日本学生支援機構理事長
副理事長	山田 幸正	H23.4.1～H25.3.31	平成12年(株)日本航空新潟支店長 平成15年タイコフローコントロールジャパン(株)人事総務本部長
常務理事(事務局長)	田中 一弘	H23.4.1～H25.3.31	平成19年福岡県環境部廃棄物対策課長 平成21年福岡県企画振興部副理事
理事(学外)	坂本 和一	H23.4.1～H25.3.31	平成12年立命館アジア太平洋大学学長 平成16年学校法人立命館副総長・立命館大学副学長 平成17年立命館大学大学評価委員会委員長 平成20年学校法人立命館評議員
理事(学外)	末吉 紀雄	H24.1.25～H25.3.31	平成22年コココーラウエスト(株)代表取締役会長 平成23年福岡商工会議所会頭
理事(学内)	甲斐 裕	H23.4.1～H25.3.31	平成13年福岡女子大学教授 平成16年福岡女子大学学生部長
理事(学内)	今井 明	H23.4.1～H25.3.31	平成9年福岡女子大学教授 平成20年福岡女子大学文学部長
監事	新原 清治	H24.4.1～H26.3.31	公認会計士(新原公認会計士事務所)
監事	吉田 純一	H24.4.1～H26.3.31	弁護士(吉田純一法律事務所)

(2)教員			平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
教員数	常勤(正規)		62人	61人	60人	65人	88人	93人
	内訳	教授	27人	27人	27人	29人	38人	38人
		助教授	-	-	-	-	-	-
		准教授	18人	20人	19人	21人	24人	26人
		講師	4人	1人	1人	2人	14人	18人
		助教	3人	4人	4人	3人	3人	2人
	助手	10人	9人	9人	10人	9人	9人	
非常勤講師		117人	119人	117人	128人	125人	111人	
	合計	179人	180人	177人	193人	213人	204人	
教員数増減の主な理由			旧学部の1・2年生科目を終了したことによる非常勤講師減、新学部の2年生以上科目を担当する常勤教員増					
(3)職員			平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人
	正規職員	県派遣	22人	20人	21人	23人	27人	25人
		プロパー	人	人	人	人	2人	4人
		他団体派遣	人	1人	人	人	人	人
		その他	人	人	人	人	人	人
		計	22人	21人	21人	23人	29人	29人
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	10人	13人	15人	21人	27人	27人	
	合計	33人	35人	37人	45人	57人	57人	
職員数増減の主な理由								
(4)法人の組織構成								
別紙(p.6)のとおり								

3. 学生に関する情報										
関連する学部・大学院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a) × 100	定員充足率の推移 (%)					
					19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
文学	計	389人	218人	56%	114	112	111	109	81	56
内訳	文学部	360人	207人	58%	117	115	113	112	84	58
	国文学科	180人	99人	55%	114	113	110	111	83	55
	英文学科	180人	108人	60%	120	116	117	113	85	60
	大学院 文学研究科	29人	11人	38%	79	83	83	66	52	38
人間環境学	計	384人	217人	57%	114	110	110	111	83	57
内訳	人間環境学部	360人	195人	54%	112	110	111	111	82	54
	環境理学科	120人	63人	53%	114	113	113	109	82	53
	栄養健康科学科	120人	66人	55%	112	112	112	112	83	55
	生活環境学科	120人	66人	55%	111	105	108	111	82	55
	大学院 人間環境学研究科	24人	22人	92%	138	113	100	121	100	92
国際文理学										
内訳	国際文理学部	960人	500人	52%					26	52
	国際教養学科	540人	281人	52%					26	52
	環境科学科	280人	147人	53%					25	53
	食・健康学科	140人	72人	51%					26	51
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由										
文学部、人間環境学部については、22年度の入学生をもって募集を停止したため、3、4年生のみ在学 国際文理学部については、23年度に新たに設置された学部のため、1、2年生のみ在学										

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	梶山 千里	H24.4.1～H26.3.31	
副理事長	山田 幸正	H24.4.1～H25.3.31	
学外委員	中村 高明	H24.4.1～H26.3.31	中小企業家同友会全国協議会副会長
	喜多 悦子	H24.4.1～H25.3.31	日本赤十字九州国際看護大学学長
	西 健一	H24.4.1～H25.3.31	福岡県立香住丘高等学校校長
	土屋 直知	H24.4.1～H26.3.31	株式会社正興電機製作所最高顧問
	山本 津弥子	H24.4.1～H26.3.31	福岡女子大学同窓会筑紫海会会長
	安武 秀明(前任)	H24.4.1～H24.7.31	西日本新聞社報道センター本部長
	友安 潔(後任)	H24.8.1～H26.3.31	西日本新聞社編集局次長
	内田 健二	H24.4.1～H26.3.31	内田健二公認会計士事務所 公認会計士・税理士
	高島 宗一郎	H24.4.1～H26.3.31	福岡市長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	梶山 千里	H23.4.1～H25.3.31	
学部長	向井 剛	H23.4.1～H.25.3.31	文学部長(H23.12.6より副学長兼務)
	小泉 修	H23.4.1～H.25.3.31	人間環境学部長
	西田 ひろ子	H23.4.1～H.25.3.31	国際文理学部長
学内組織の長	甲斐 裕	H23.4.1～H.25.3.31	副学長(兼理事)
	今井 明	H23.4.1～H.25.3.31	副学長(兼理事)
	田中 一弘	H23.4.1～H.25.3.31	事務局長
	森 邦昭	H23.4.1～H.25.3.31	学術情報センター長
	吉村 利夫	H23.4.1～H.25.3.31	地域連携センター長(H23.12.6より副学長兼務)

公立大学法人福岡女子大学の組織



法人自己評価

I 全体

本学では、「国際性」を涵養し、「グローバル社会の課題に主体的に取り組み、文理を統合した多角的な知識を活用して課題解決に導く総合的能力」を有する次代の女性リーダーの育成を目指して、平成23年4月に新しく国際文理学部を開設した。

2年目に入った平成24年度には、文理統合教育を推進するため、人文科学・社会科学・自然科学等の共通基盤教育を充実するとともに、新しい教育体制の要として、大学における基礎的な学習スキルを養成する「ファーストイヤー・ゼミ(FYS)」や4年間の学びを専任教員がマンツーマンできめ細やかにサポートする「アカデミック・アドバイザー(AA)システム」の運営を軌道に乗せることができた。

英語教育については、少人数・習熟度別にクラスを編成し、国際関係や環境問題、食糧問題などを題材に「英語で学ぶ」という新しい英語学習法(学術英語プログラム:AEP)を、1年次から2年次前期にかけて集中的に実施し、英語力の強化を図った。

世界に開かれた大学として、海外大学との提携を積極的に推進するとともに、学内における国際関係科目や国内留学体験イベント、魅力的な海外語学研修プログラムの提供等により、学生の世界への興味関心を引き出し、交換留学や海外語学研修に派遣した学生数は平成24年度計画の数値目標を上回っており、国際的視野を醸成することに繋がった。また、外国人留学生のために体系化された授業や活動を現代日本文化プログラムとして提供し、キャンパスの国際化を推進した。

教育の場として学生寮を活用するため、初年次の1年間、全寮制教育を実施し、同級生や海外からの留学生との共同生活や様々な交流を通じて多様性に触れ国際感覚を深めるとともに、学生寮運営部会(大学側)となでしこメイト(留学生をはじめとした寮生の日常生活全般をサポートする2年次以上の学生スタッフ)・フロアリーダー(学生寮において課題検討、行事企画、連絡調整等を行う1年次学生)の連携により、各種プログラムや寮生主体の講演会・イベントを開催するなど、リーダーシップを身につけるための活動にも取り組んだ。

国内における広報活動を年度計画に基づき戦略的に行った結果、オープンキャンパスや学校見学会等の学内イベントの参加者が2千名を超えた。このことは、本学に興味関心を持つ高校生等が大幅に増加し、本学のブランド力が向上していると推測される。

産学官、国内外の他大学との連携によるイベント・講演会や共同研究を行い、交流の拡大を確実に図っている。

女性リーダー育成や女性のキャリアアップ等に資するため、公開講座や特別講演会を実施したところ、好評を得ることができ、女性生涯学習拠点として大きな役割を果たした。その他の公開講座や出前講座、留学生の地域交流など、地域における活動も増加し活動の幅を広げている。

平成23年度に引き続き、プロパー採用試験を実施し、専門性を備えた職員を採用した。また、職員の育成のため、職員の業績評価制度の導入について検討を行い、評価制度の策定に着手した。また、外部資金獲得を促進するための活動を行い、併せて管理経費の削減に努めた。

また、自己点検・評価結果及び県評価委員会による評価結果をホームページで公開した。併せて、評価結果に基づく業務改善を行った。

以上のように、平成24年度計画を達成するため、新学部の体制や教育・研究等の充実に向けて、全学を挙げて取り組んだ。

II 中期目標項目別

1 教育

概ね計画どおり実施している。

○学部共通教育の要であるFYSの科目運営について、学内で作成したハンドブックや統一した科目運営方針を整備したことで、一定の標準型を共有できた。また、AAが1年間FYSを担当する方式を試験的に導入したところ、細やかな指導体制を確保でき、AA機能を強化することができた。

○2年次後期からのコース選択、3年次後期からの卒論ゼミ選択を控えた各学科の学生個々に対して丁寧な学習指導を実施するために、4年間のAAシステム運用方法の概略を構築した。

○英語圏の語学研修受入先を拡大して充実を図り、英語圏への派遣目標40名以上に対し、68名の学生を派遣することができた。

○交換留学と語学研修を合わせた渡航者数は、95名の目標に対し、実績118名と、目標を上回って達成できた。

○試行実施した梨花女子大学校(韓国)と英語による共同サマープログラム(EAT40)には合計31名(梨花女子大学21名、本学10名)が参加し、韓国でのプログラム、福岡でのプログラムいずれも成功裏に事業を終えることができた。

○女子大記念プログラム(WJC)は、新たにコペンハーゲン大学(デンマーク)が参加し9カ国10大学41名の参加を得て実施し、学部受入れと合わせて、25名の目標に対し実績46名を達成した。

○学部学生のWJCプログラム履修、3日間のイングリッシュビレッジ(英語のみ使用の疑似留学体験)、平成24年度試行実施したEAT40の取組みにより、通年で、延べ62名(学年定員の1/4に相当)の学生に学内での留学体験を提供することができた。

○TOEFL対策については、TOEFL試験の実施と対策講座の開催等を継続して実施したが、数値目標の達成には至らなかった。

○海外の留学フェア(進学相談会)は、5カ国・地域10会場(ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア)に参加した。

○「留学生に対する募集広報活動」を積極的に推進する為、日本語学校・他大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を実施した。

○学生寮については、学生寮運営部会となでしこメイト、フロアリーダーとの連携により、各種プログラムやイベントを組織的・計画的に実施したことにより、年度計画を十分に実施した。

○国際教養学科の2年生について、学科オリエンテーション及びAA・CA(カリキュラム・アドバイザー:学科のカリキュラムだけでなく、副専攻など他学科にまたがるような履修全般について助言・指導を行う教員)面談の内容と実施時期の設定がうまく機能し、学生の希望に沿ったコース分けを実施することができた。

○環境科学科においては、1年生対象に数学・理科の補習を行って基礎力の養成を行い、2年生に対しては「環境科学概論」で環境科学における学際的・横断的な学びを推進した。併せて、コース横断型の学習・研究プロジェクト2テーマを設定し、平成25年度以降の卒業研究指導体制の充実を図った。

○食・健康学科における英語教育の充実については、EAT40を実施した。また、新規の海外研修科目も実施の目処が立った。

○年度計画の4回を上回る5回のFD研修会を開催し、教員の積極的な参加により、参加率は100%であった。

○学内イベント(オープンキャンパス、学校見学会等)の参加者数が2137名(昨年1774名)と2000名以上となり、大きく増加している。これは、平成24年度の広報活動の結果であり、本学に興味・関心を持つ高校生等が平成23年度以上に大幅に増加しているという事実で、本学のブランド力が向上していると推測される。

○インターンシップへの参加を積極的に推進し、結果として65名の参加となった。

○首都圏・関西での企業訪問を実施し、本学での企業説明会(全日空など)の開催につなげる事ができた。

○就職先企業の開拓のため、目標の2倍の100社の企業訪問を実施した。関東の企業(全日空・協和発酵キリンなど)を含め23社の「学内企業説明会」を開催した。

法人自己評価

2 研究

計画どおり実施している。

○産学官技術交流会やセミナーを他機関と連携して開催し、主催者及び参加者の交流の場を設定することで、学内の研究情報の発信及び地域ニーズの把握に努めた結果、数値目標をすべての項目において上回り、年度計画を達成している。

○EUIJ九州構成各校のEUディプロマプログラム(EUDP:EUについての体系的な学習、研究を行う機会を提供するプログラム。所定の科目を履修した学生は、EU研究の修了証書を取得できる。)登録者数は、本学104名、九州大学34名、西南学院大学77名(いずれも学部レベル)の計215名。各校学生数を考慮した場合の登録率は本学が群を抜いており、学生のEUへの関心を著しく高めることができた。

また、海外ゲストを招いての大規模かつ本格的な国際シンポジウムの学内開催により、教職員・在校生等の学術交流に関する気運を醸成した。

○科研費新規獲得率の向上を目指し、例年開催している科研費説明会に加え、科研費獲得のノウハウを持つ外部講師を招聘した科研費獲得セミナー「科研費獲得の方法とコツ」を初めて開催した。

3 社会貢献

計画どおり実施している。

○女性の生涯学習拠点化の一環としてグローバル化に対応したプログラム3件(公開講座及び特別講演会)を実施し、高い評価を得た。特に、初めて同窓会と連携して行った特別講演会は、多数の参加があり好評だった。

○開放授業パンフレットをわかりやすい内容に刷新し、広く周知した。

○地域交流件数は36件であり、平成23年度の13件から大幅に増加した。

○平成24年度の目標に掲げた「『アジア地域大学コンソーシアム福岡』の枠組みを使った共同研究」を計画通り実施したことに加え、同コンソーシアム設置をきっかけに平成24年度に試行実施したEAT40により、梨花女子大学校(韓国)との密な学生交流・教員交流を実現させることができた。

4 業務運営

計画どおり実施している。

○執行部会議において法人・大学運営に係る課題点を抽出・整理し、またその課題解決における進捗状況を随時把握しながら業務を推進した。

○平成23年度に引き続き、プロパー採用試験を実施し、専門性を備えた職員を採用した。

○教員の個人業績評価を実施するとともに、その制度を見直し、新評価制度を策定した。また職員の業績評価については、他大学の状況を調査しながら、導入について検討を行い、評価制度の策定に着手した。

5 財務

概ね計画通り実施している。

○外部資金の獲得を促進するため、教員向け説明会・セミナーを実施したほか、学内研究者情報に関する冊子を学外に配付し、女子大の研究シーズを積極的に発信した。

○業務内容や手順を見直し、適切な人事配置を行った。また時間外勤務手当額については目標を上回る削減を行った。

○光熱水費等の管理経費については、学年進行に伴う学生増加に伴い、いずれも大幅増が見込まれたが、節減に取り組んだ結果、電気使用量は目標を達成し、印刷物配付資料(コピー枚数)、通信運搬費については、微増にとどめることができた。

6 評価及び情報公開

計画通り実施している。

○自己点検・評価結果及び県評価委員会による評価結果をホームページにて公開した。また評価結果に基づいて業務の改善を行った。

○大学ホームページ、携帯ホームページをタイムリーに更新し、積極的な情報の提供を図った。

○個人情報の適切な管理を遵守するよう、全教職員に対し外部講師による個人情報保護説明会を実施した。

Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

○学部共通教育の要であるFYSの一定の標準型を共有し、科目運営における基礎を構築した。併せてAAシステムについて、初年次のきめ細かな学習指導、2年次後期からのコース選択、3年次後期からの卒論ゼミ選択等の各年次において必要な指導に合わせたAAの運用方法を構築した。

○東部地域大学、県立三大学等他大学との連携を積極的に進め、学生の地域交流活動の支援や公開講座・講演会を実施した。

また、女性の生涯学習の拠点化を図るため、グローバル化に対応したプログラム3件(公開講座および特別講演会)及び女性のキャリアアップのための公開講座を実施したところ、高い評価を得た。

○平成23年度に引き続き、プロパー採用試験を実施し、専門性を備えた職員を採用した。

○広報活動は、進学メディア、新聞、Web等様々なメディアを利用し、年度計画どおり実施した。オープンキャンパス、学校見学会等の学内イベントの参加者数が2137名で平成23年度の1774名から大きく増加していることから、本学に興味・関心を持つ高校生等が大幅に増加しており、本学のブランド力が向上していると推測される。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 1. 教育</p>	<p>「グローバルな視点に立って国内外で幅広く活躍することができる女性を育成する。」</p> <p>(1) 特色ある教育の展開 福岡女子大学は、国際的な視野と外国語コミュニケーション能力を身に付けさせるとともに、グローバル社会の課題に主体的に取り組み、文理にわたる幅広い知識を活用して課題解決に導く実践的な能力を養う教育を行う。</p> <p>(2) 教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3) 意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4) 学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
-----------------------	--

項目	中期計画 実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
					評価	理由		
<p>1 グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する学部共通の教育</p> <p>学士課程4年間を通じて実施する「国際共生プログラム」を教育の柱として、グローバル化時代に求められる基盤的・実践的な能力を養成する。</p>	<p>1 【主体的な学びの姿勢の養成及び多面的なものの見方・考え方の涵養】</p> <p>初年次教育により、学習の動機付けと主体的な学びの姿勢を養成するとともに、人文・社会・自然科学の各分野に亘る科目の履修や、学生参加型・双方向型の少人数教育を重視した学部4年間を通じた系統かつ柔軟に学べるシステムを通じて、文理を統合した多面的なものの見方・考え方を涵養する。 (対象科目:ファーストイヤー・ゼミ、日本文化理解、情報活用、共通基盤、健康スポーツ)</p> <p>・上記目的に沿った科目内容の充実 ・学生参加型・双方向型の授業・演習の充実 ・学科の垣根を越えた柔軟に学べる履修システムの充実</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○科目内容の充実 ・ファーストイヤー・ゼミについて、平成23年度の授業の実績を踏まえ、授業内容の調整や、前期と後期のクラス分け方針の見直し等を行う。 ○学生参加型・双方向型の授業・演習の充実 ・学生参加型・双方向型の授業・演習の充実を目指し、全学的にFD活動を行う。 ○学科の垣根を越えた柔軟に学べる履修システムの充実 ・共通基盤科目等の時間割配置について十分な検討を行い、できるだけ幅広く柔軟な履修が可能となるように改善する。 ・アカデミック・アドバイザー、カリキュラム・アドバイザーによる学生の個人面談を通じて、履修システムの課題点等を把握し、充実・改善につなげる。</p> <p>※アカデミック・アドバイザー(AA): 学生が主体的、体系的に履修できるよう、入学時から卒業時まで助言・指導を行う教員 ※カリキュラム・アドバイザー(CA): 学科のカリキュラムだけでなく、副専攻など他学科にまたがるような履修全般についての助言・指導を行う教員</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○科目内容の充実 ・共通科目の要となるファーストイヤー・ゼミ(FYS)について、学部全体で統一した科目運営方針に沿って授業を行うよう申し合わせた。 ・平成23年度末までに作成したFYS用ハンドブックを活用するため、年度始めに、ハンドブックの説明のための全学的なFD集会を開催した。 ・図書館にFYS関連図書コーナーを設置し、学生がFYSに取り組みやすい環境を整えた。 ・学部公式のAA(アカデミック・アドバイザー)・FYS運営会議を計4回開催し、種々の問題点について意見交換を行った。 ・FYSのクラス編成は平成23年度と同じく学科別とし、初年次の細やかな指導体制を確保するべく、1年間同じクラスを同じ教員がAAとして担当する方式を試験的に導入して、AA機能を強化した。またクラス毎の留学生数の偏りをなくすために、留学生を各クラスに1名ずつ振り分けた。</p> <p>○学生参加型・双方向型の授業・演習の充実 ・平成24年度の科目担当者を中心にFYS授業開発研究会を組織して、7月、8月、10月、12月に学生参加型の授業方式を定着させるためにFD研修会を実施した。さらに後期末にはFYS6クラス合同のプレゼン大会を実施し、学内に広く公開した。</p> <p>○学科の垣根を越えた柔軟に学べる履修システムの充実 ・共通基盤科目等の自由選択科目の時間割に、学科必修科目を重ねないという基本原則を維持することができた。特に非常勤講師の科目配置に支障が出ないように、平成25年度の時間割編成に例年より早めに着手し、万全の調整をすることができた。 ・きめ細かなAA面談の実施により、学生自身の興味関心に沿う柔軟な履修状況を確認できた。 ・2年次後期からのコース選択、3年次後期からの卒論ゼミ選択を控えた各学科の学生個々に対して丁寧な学習指導を実施するために、4年間のAAシステム運用方法の概略を構築した。</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>・FYSの学内ハンドブックの作成及びそのハンドブックを活用するためのFD集会の開催、併せて科目運営方針の整備により、16クラスもあるFYSにおいて、基本的な授業内容を統一した上で各担当教員の専門を生かした発展的な学習に結びつけることが可能となった。 ・学生参加型・双方向型の授業・演習の充実のため、教員間における大小のFD研修会や研究会を実施した上で、FYSの合同プレゼン大会6回を、学内に広く公開実施した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		1

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	<p>【英語コミュニケーション能力及び学術英語スキルの養成に向けた英語教育の強化】</p> <p>世界の人々との確にコミュニケーションをとることができるよう、1年次から2年次前半にかけて、全学生を対象に少人数・習熟度別クラス編成による英語教育を実施し、英語コミュニケーション能力と学術英語のスキルを養成するとともに、学科における英語による授業科目を拡大し、補習講座を開設するなどして英語力の向上を図る。 (対象科目:学術英語プログラム(AEP)、アドバンス・イングリッシュ)</p> <p>・科目内容の充実 ・英語による授業内容の充実と科目数の拡大 ・海外語学研修(英語)の推進 ・海外留学向け補習講座等の開設</p> <p>○達成目標 ・AEP独自の教育成果(プレゼンテーション、リーディング、ライティング)についての目標:最終レポートを英語論文(2,000語以上)で書くことができる。最終レポートに基づいて、15分以上のプレゼンテーションができる。 ・卒業時までのTOEFL点数:国際教養学科550点以上到達者50%以上、環境科学科及び食・健康学科520点以上到達者50%以上 ・英語による授業科目数:(現カリ充実を優先し、年度計画で設定) ・海外語学(英語)研修派遣学生数:(今後の実績を踏まえて年度計画で設定) ・TOEFL対策講座の科目数、参加学生数(AEP終了後):3科目(リスニング、リーディング、文法)以上(参加学生数は年度計画で設定)</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○科目内容の充実 ・「15人の少人数クラス」と「習熟度別クラス編成」を継続する。 ・教員同士の講義見学により講義内容・スキルの向上を図る。 ・アドバンス・イングリッシュ(2、3、4年後期開講)を上級英語Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとして開講する。Ⅰは英語、Ⅱは科学英語、Ⅲは文学教材を用いて授業を展開する。 ・TOEFL専門部会を教務部会のもとに設置し、TOEFL試験の運営と学習支援を行う。(TOEFL試験の年2回(8月、2月)開催、TOEFL対策講座の実施)</p> <p>○英語による授業内容の充実と科目数の拡大 ・AEPでの学習の補充及び更なる英語力の向上を図るため、各学科の専門科目における英語による授業・講義や英語教材を用いた授業運営を行う。 ○海外語学研修(英語)の推進 ・現在実施している英語圏への海外語学研修の更なる拡大・充実を図る。 ○海外留学向け補習講座等の開設 ・TOEFL対策の集中講座を開催するとともに、TOEFL補習授業を継続する。また、WJCの授業を派遣留学予定者を始め全学生へ開放し、単位認定を行う。</p> <p>○数値目標 ・AEP:最終レポートを英語論文(2,000語以上)で書くことができる 最終レポートに基づいて、15分以上のプレゼンテーションができる ・卒業時までのTOEFL点数:(2年生)国際教養学科、550点以上到達者30%以上 環境科学科及び食・健康学科、520点以上到達者30%以上 ・英語による授業科目開設:5科目以上 ・語学研修(英語)研修派遣学生数 40名以上 ・TOEFL対策講座 3科目(リスニング、リーディング、文法)以上</p>	2	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○科目内容の充実 ・「15人の少人数クラス」と「習熟度別クラス編成」を継続した。 ・公開授業を行い、教員同士の講義見学を実施したほか、週1回の定例会議の際に、折々の課題や問題を持ち寄り話し合う機会を持ち、教員同士の連携確認と授業内容・スキルの向上を図った。 ・アドバンス・イングリッシュとして「英語上級Ⅰ」「英語上級Ⅱ」「英語上級Ⅲ」を後期に開講し、更なる英語力の向上を図った。 ・本学における英語教育の目標全般を統括審議する組織として「英語教育部会」を、またTOEFL及びTOEIC試験の対策講座と試験の運営を行う組織として「TOEFL・TOEIC運営部会」を設置し、目標達成に向けた全学協力体制を敷いた。 ・英語能力測定のための試験を在学期間中に5回受験することを義務づけ、うち4回は大学が測定指標として定めるTOEFL試験を、残る1回はTOEFL或いは就職対策用のTOEIC試験を受験することを決定した。またこの5回の受験費用は、後援会と大学が負担することとした。 ・TOEFL試験の結果に鑑みて、目標スコア別に前・後期あわせて、5つの対策講座を開講し、スコアの向上を図った。 ○英語による授業内容の充実と科目数の拡大 ・英語による授業は、前期に5科目(全英語2科目、一部英語3科目)、後期に9科目(全英語4科目、一部英語5科目)、それぞれ実施した。 ○海外語学研修(英語)の推進 ・英語圏の研修先として、米国とニュージーランドに、新たにイギリス(マンチェスター大学)を加えて充実・拡大を図り、合計68名の学生が英語圏で語学・文化研修を行った。 ○海外留学向け補習講座等の開設 ・TOEFL対策として、「リーディング」、「文法」、「総合(リスニングに文法・リーディングの要素を加え、総合的なスコアアップを目指す対策講座)」の3科目5講座を実施した。 ・平成24年度から学部学生が短期留学生受け入れプログラム(WJC)の科目を履修する手続きを整備し、前期は9名が12科目を、後期は21名が26科目を履修した。 ○目標実績 ・AEP:最終レポートを英語論文(2,000語以上)で書くことができる 91% (209名/229名中) 最終レポートに基づいて、15分以上のプレゼンテーションができる 94% (215名/229名中) ・TOEFL点数 国際教養学科、550点以上到達者(TOEFL試験 満点677点) 2年生:0名、1年生:1名(643点) 環境科学科及び食・健康学科、520点以上到達者 2年生:0名、1年生:1名 ・英語による授業科目開設: 14科目 ・語学研修(英語)研修派遣学生数: 68名 ・TOEFL対策講座: 3科目5講座実施した</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>・AEPの成果指標としている2000語以上の英語論文及び英語での15分以上のプレゼンテーションを9割以上の学生がクリアし、1年半のAEPによる英語力向上の成果が確認された。 ・英語圏の語学研修受入先を拡大(イギリス)し、語学研修を充実させ、語学研修派遣学生数は、目標40名以上に對し、大きく上回る68名であった。 ・英語による授業、英語教材を用いた授業運営を行った授業数は、目標5科目以上に対し、大幅に上回る14科目であった。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <p>・英語力の一つの指標であるTOEFL試験結果については、その目標を達成することが出来なかったが、「TOEFL・TOEIC運営部会」を設置してTOEFL対策講座を含む学習支援を行ったほか、受験費用の補助を行うなど、スコアアップに向けた対策と受験しやすい環境整備の両方向からの取組みを精力的に行った。</p>	No.8「資格試験合格率、免許の取得」(3)TOEFL試験の状況	2

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
3	<p>【世界の優秀な学生と共に学ぶ国際的な学習環境の提供】</p> <p>充実した海外学習プログラムの提供や、日本語教育の充実等によるアジアをはじめとする外国人留学生の受け入れ、また学内で短期外国人留学生向けに英語で教授するプログラムを日本人学生が受講することで、海外留学体験の環境を提供して、異なる歴史的・文化的背景を持つ世界の優秀な学生とともに切磋琢磨して学ぶ環境を充実する。</p> <p>・短期海外学習プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施と拡充 ・短期留学生受入プログラム(交換留学)の実施・新規開発 ・私費外国人受入留学生の受け入れ国の多様化(入試方法、広報活動の工夫等) ・留学生に対する少人数クラス編成による日本語教育(AJP)の充実 ・学内での海外留学体験の環境整備</p> <p>○達成目標 ・海外派遣(交換留学・体験学習・語学研修)学生数:年120名以上 ・短期受入留学生数:年20名</p>	1-1	<p>【平成24年度計画】</p> <p>○短期海外学習派遣プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施と拡充 ・海外語学研修の科目を設定し、海外協定校を中心に本学学生のための研修プログラムを実施する。 また、梨花女子大学と共催予定の日韓を跨って実施する短期プログラムEAT40(East Asian TEAM Project—Food and Culture 40)を試行するとともに、協定校とのその他の新規共催事業も検討する。 ・オーストラリアやスリランカにおいて、環境問題や国際開発協力をテーマとした海外体験学習プログラムを実施する。 ・国際化推進基金等を原資とする交換留学支援制度及び語学研修・体験学習支援制度の周知により、提携校等への渡航を推進する。 (交換留学支援制度) ・JASSOの補助金受給者 ……月額8万円 ・上記補助金を受給しない者……渡航費として欧米15万円、アジア8万円(目安)(語学研修・体験学習支援制度) ・参加費として5万円</p> <p>○短期留学生受入プログラム(交換留学)の実施・新規開発 ・女子大記念プログラム(WJC:The world of Japanese Contemporary Program)参加校の多様化を図るとともに本学からの奨学金(8万円/月)の支給を受けないプログラム参加者の受入を検討する。また、前記短期プログラムEAT40により梨花女子大学の学生も受け入れ、学生の多様化を図る。 ○私費外国人受入留学生の受け入れ国の多様化(入試方法、広報活動の工夫等) ・渡日前入学試験を実施する。実施する国としては、昨年「志願者」実績のある韓国を検討する。その他のアジアの試験候補地については、現状を踏まえ、検討する。また、広報活動としては、海外で入試を行う2カ国は積極的に留学フェア(進学相談会)に参加する。加えて周辺諸国で行われる留学フェア(進学相談会)にも参加する。 ・日本で行われる留学生向け進学相談会に参加する。(福岡、東京、大阪)また「日本語学校」への渉外を通じて、留学生への入試広報活動を強化する。 ○留学生に対する少人数クラス編成による日本語教育(AJP)の充実 ・AJPの授業のうち、少人数クラスが望ましい3科目(ライティングⅠ・Ⅲ、日本事情Ⅰ・Ⅱ、コミュニケーションⅠ・Ⅱ)を2クラスに分け、少人数クラスにすることで学生全員が参加する双方向的授業の一層の促進を図る。 ・AJP初年度の授業内容を検証し、改善を行う。 ・初年度の授業内容、学生の成績等を吟味し、2年次前半の授業内容を見直す。</p>	2	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○短期海外学習派遣プログラム(交換留学・体験学習・語学研修)の実施と拡充 ・海外語学研修プログラムを実施し、夏季30名(中国11、タイ7、米12)、春季71名(ニュージーランド17、米11、英28、独6、ベルギー9)の合計101名が参加した。 ・平成24年度に試行実施した梨花女子大学校(韓国)との共同サマープログラム(EAT40)には合計31名(梨花女子大学校21、本学10)が参加し、韓国でのプログラム(8/13～8/18)、福岡でのプログラム(8/20～8/24)、いずれも成功裏に終わることができた。 ・海外体験学習プログラムについては、スリランカにおいて国際開発協力をテーマとした「フィールドスタディ」及びNGO就業体験を行う「国際インターンシップ」を実施し、合わせて4名が参加した。 ・交換留学については、秋(8～9月)出発8名(デンマーク2、アイスランド1、スウェーデン2、ベルギー3)、春(1～2月)出発9名(インドネシア1、韓国3、タイ1、中国2、ベルギー2)の合計17名が留学を開始した。 ○短期留学生受入プログラム(交換留学)の実施・新規開発 ・学部への交換留学生受入れが実現し、初年度の平成24年度は5名を受け入れた。 ・女子大記念プログラム(WJC)は、平成24年度から新たにコペンハーゲン大学(デンマーク)が参加し、9カ国10大学41名(平成23年度から継続12、平成24年度新規29)の参加を得て運営した。なお、本学からの奨学金(8万円/月)の支給を受けないプログラム参加者については、受け入れる留学生数が奨学金の支給人数枠内だったため、該当者はなかった。 ・8月に試行実施した梨花女子大学校との共同サマープログラム(EAT40)に梨花女子大学校から21名が参加した。 ○私費外国人受入留学生の受け入れ国の多様化(入試方法、広報活動の工夫等) ・渡日前入学試験を実施する国については、「日本留学試験」の実績を踏まえ、韓国とベトナムで計画し、出願のあった韓国のみ試験を実施した。海外での「留学フェア」については、試験実施予定国の2ヶ国を含む5ヶ国・地域(ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア)10会場に参加した。 ・国内での「留学フェア」については、7月に東京・大阪・福岡で行われたイベント(17回)に参加するとともに周辺の日本語学校(27校)への渉外活動を実施した。特に福岡地区については、複数回の日本語学校への渉外活動を通じて、信頼関係の構築に努めた。 また、「留学生に対する募集広報活動」を積極的に推進するため、日本語学校・他大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を実施し、210名の留学生が参加した。 ○留学生に対する少人数クラス編成による日本語教育(AJP)の充実 ・1年生の3科目を2クラスに分けて少人数化したことで、双方向型授業が効果的に実施でき、各学生の実力や上達具合の把握が容易にできた。 ・初年度の学生と比較することで、後期の授業の内容を調整することができ、コース全体の授業内容の改善点も見えてきた。 ○OPI(Oral Proficiency Interview)を用いた学部留学生の日本語口頭能力の測定とその結果の活用 ・4月に新入留学生全員を対象にOPIを実施し、日本語口頭能力を把握した上で授業計画を立て、授業を行った。3月末までに1、2年生に対してOPIを再度実施し、口頭能力の伸展についても把握した。 ○福岡女子大学の留学生全般に対する日本語教育の全体像の検証 ・3月末までに、AJPの履修を済ませた2年生を対象にしたアンケートおよび聞き取りを概ね実施できた。</p>	A+	<p>【高く評価する点】</p> <p>・WJCの学生数に関しては、学内における国際的な修学環境の充実に大きく影響するところであり、目標を大きく上回る41名を受入れることができた。 ・海外において、戦略的積極的に広報活動を実施した結果、私費外国人留学生の受け入れ国が3ヶ国(平成23年度比1.5倍)となった。 ・留学生に対する積極的な募集広報活動として、日本語学校・福岡の7大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を実施した。これは、本学においては初めての取組みであり、他大学では実績のない企画である。また、東京・大阪でしか留学フェアを開催しないJASSOの協力を得たことにより、当該進学フェアの価値を更に高めることに成功した。 ・イングリッシュビレッジ及びEAT40といった新規のプログラムを実施し、計画以上の留学体験を提供することができた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.25「学生、教員の国際交流」 No.4「入試説明会」	3

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																												
項目	実施事項				評価	理由																																														
		<p>【平成24年度計画】</p> <p>○OPI(Oral Proficiency Interview)を用いた学部留学生の日本語口頭能力の測定とその結果の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OPIを用いて、学部留学生の口頭能力を把握し、その結果を学部留学生の口頭能力向上のために活用する。また、今後の教育・研究面に活用できるよう、OPIデータの保存・整理を行う。 <p>○福岡女子大学の留学生全般に対する日本語教育の全体像の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24年度は留学生の日本語学習の実態把握に努め、日本語教育の全体の方向付けについて検討する。 <p>○学内での海外留学体験の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期留学生受入プログラム(WJC)等本学内で実施される英語による講義の日本人学生の聴講を推奨する。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣(交換留学・体験学習・語学研修)学生数:140名(交換留学10名、海外体験学習30名、語学・文化研修85名、EAT40本学参加者15名) ・短期受入留学生数:50名(交換留学(一般)3名、WJC22名、EAT40梨花女子大学校側参加者25名) ・私費外国人受入留学生の受け入れ国 2カ国・地域以上 ・留学フェア(進学相談会)参加国 4カ国・地域以上 (韓国、タイ、インドネシア、ベトナム等) 		<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○学内での海外留学体験の環境整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度から学部学生がWJCの授業を履修する手続きを整備し、前期は9名が12科目を、後期は21名が26科目を履修した。 ・6/29から7/1の3日間、イングリッシュビレッジ(英語のみ使用の疑似留学体験)を宗像市で開催し、学部生22名が参加した。 ・平成24年度に試行実施したEAT40は、英語を使用してプログラムを実施し、プログラムの一部を本学内でも実施した。 <p>○目標実績</p> <p>・海外派遣学生数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標人数A</th> <th>実績人数B</th> <th>B÷A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交換留学</td> <td>10名</td> <td>17名</td> <td>1.70</td> </tr> <tr> <td>体験学習</td> <td>30名</td> <td>4名</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>語学研修</td> <td>85名</td> <td>101名</td> <td>1.19</td> </tr> <tr> <td>EAT40</td> <td>15名</td> <td>10名</td> <td>0.67</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>140名</td> <td>132名</td> <td>0.94</td> </tr> </tbody> </table> <p>・短期留学生受入れ数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標人数A</th> <th>実績人数B</th> <th>B÷A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交換留学(一般)</td> <td>3名</td> <td>5名</td> <td>1.67</td> </tr> <tr> <td>WJC</td> <td>22名</td> <td>41名</td> <td>1.86</td> </tr> <tr> <td>EAT40</td> <td>25名</td> <td>21名</td> <td>0.84</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>50名</td> <td>67名</td> <td>1.34</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・私費外国人受入留学生の受け入れ国 :3ヶ国(中国、ベトナム、韓国)からの入学者実績 ・留学フェア(進学相談会)参加国 :5カ国・地域10会場で実施 (ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア) 		目標人数A	実績人数B	B÷A	交換留学	10名	17名	1.70	体験学習	30名	4名	0.13	語学研修	85名	101名	1.19	EAT40	15名	10名	0.67	小計	140名	132名	0.94		目標人数A	実績人数B	B÷A	交換留学(一般)	3名	5名	1.67	WJC	22名	41名	1.86	EAT40	25名	21名	0.84	小計	50名	67名	1.34				3
	目標人数A	実績人数B	B÷A																																																	
交換留学	10名	17名	1.70																																																	
体験学習	30名	4名	0.13																																																	
語学研修	85名	101名	1.19																																																	
EAT40	15名	10名	0.67																																																	
小計	140名	132名	0.94																																																	
	目標人数A	実績人数B	B÷A																																																	
交換留学(一般)	3名	5名	1.67																																																	
WJC	22名	41名	1.86																																																	
EAT40	25名	21名	0.84																																																	
小計	50名	67名	1.34																																																	

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>4【国内外での充実した体験学習の実施】</p> <p>国内外の大学や企業等学外の教育リソースを積極的に活用して、実社会の課題や本学での学習内容に対するより深い理解を養い、学習意欲を喚起するとともに、これからの社会で自らの生き方を切り拓くことのできる実践的な能力を培う。</p> <p>・国内体験学習(地域との連携・交流)プログラムの実施・新規開発 ・海外体験学習プログラム(短期、長期)の実施・新規開発</p> <p>○達成目標 ・国内体験学習参加学生数:(事業展開の広がりをつまみ、年度計画で設定) ・海外体験学習参加学生数:年30名以上</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○国内体験学習(地域との連携・交流)プログラムの実施・新規開発 ・「国際インターンシップ」(国内)の実施 自治体でのインターンシップ(福津市の住民主体の地域づくり活動等への参加等) 企業でのインターンシップ(地元企業のCSR(企業の社会的責任)活動への参加等) ・「フィールドワーク」の実施 唐泊カキ養殖体験、朝倉市農業体験 等 ・「サービスマーケティング」の実施 NPO循環生活研究所の活動の企画補助等</p> <p>○海外体験学習プログラム(短期)の実施 ・「フィールドスタディ」(豪州エコビレッジにおける環境問題体験学習、スリランカにおける国際開発協力)を実施する。</p> <p>○数値目標 ・国内体験学習参加学生数:年30名以上 ・海外体験学習参加学生数:年30名以上</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○国内体験学習(地域との連携・交流)プログラムの実施・新規開発 ・「国際インターンシップ」参加者数 7名 福津市の住民主体の地域づくり活動等への参加や企業でのインターンシップなどを行った。 ・「フィールドワーク」参加者数 6名 唐泊カキ養殖体験、秋月での農業体験等を行った。 ・「サービスマーケティング」参加者数 13名 NPO循環生活研究所やアビスパ福岡の活動の企画補助等を行った。 佐賀県庁や宗像市において、地域の課題解決に向けた政策づくりの企画補助等を行った。 ・その他 フィールド実践研究推進論Ⅰ(事前学習)14名 フィールド実践研究推進論Ⅱ(事後学習)16名 延べ30名が事前・事後学習に取り組んだ。</p> <p>○海外体験学習プログラム(短期)の実施 ・フィールドスタディ スリランカ 参加者3名 オーストラリア参加者 0名 ※オーストラリアは履修登録者がいなかったため。 ・国際インターンシップ スリランカ・NGO就業体験 参加者1名</p> <p>○目標実績 ・国内体験学習(「国際インターンシップ」「フィールドワーク」「サービスマーケティング」)参加者26名 ・海外体験学習:参加者数4名</p> <p>○海外体験学習については、入学式後、短い履修登録期間に、学生に対してプログラムの魅力を伝える効果的な周知ができなかったため、履修登録者数が少なかったものと思われる。平成25年度は、オリエンテーションなどを充実させ、学生への周知を図る。また、教員の増員やプログラムの拡充を行うことにより、より幅広い内容からのプログラム選択を可能にし、参加学生数の拡大を図る。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>・事前の目標共有や事前学習・準備を精力的に行い、現場ではスタッフの一員として企画・提案するなど積極的に活動したことから、体験学習先から高い評価を得た。 ・体験学習の各プログラムは、学外からの関心も高く、テレビ・新聞等のメディアに多数取り上げられている。 ・新たな取組みとして、平成23年度にスリランカにおける国際開発協力を学んだ学生による、スリランカ・NGO就業体験を2ヶ月間実施した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <p>・国内体験学習の参加学生数は、26名で目標の9割程度にとどまった。 ・海外体験学習の参加学生数は、4名で目標に届かなかった。</p>	No.25「学生、教員の国際交流」	4

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>5【学生の主体的学習を支援する体制の構築】</p> <p>学生自らが、学習目標に沿って主体的かつ体系的に履修できるよう、入学時から卒業までの継続的かつ一貫した学習指導・助言を実施するアカデミック・アドバイザーシステムを構築するなど、それぞれの学生の実情に応じたきめ細やかなサポートを行う履修指導体制を構築する。</p> <p>・プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリクス等による、主体的学習支援のための環境整備 ・アカデミック・アドバイザーシステムの構築 ・厳格な成績評価及びGPA制度の履修指導への活用</p> <p>※プログレス・ファイル: 学生が各履修科目についての学習目標、成果、課題等について記入するファイル。 ※カリキュラム・マトリクス: 授業毎に獲得すべき能力・態度分布を明らかにした表。</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○アカデミック・アドバイザーシステムの構築 ・アカデミック・アドバイザーの所掌事項を定め、マニュアルを作成する。 ・学期ごとに定期的に学生との個人面談を実施し、それぞれの学習状況を把握して助言を行う体制を整備・充実する。 ・学生の要望に応じて、オフィスアワーなど、適宜アカデミック・アドバイザーに相談することができる環境を整える。 ・学生ひとりひとりの履修や学習状況を把握すると共に、現場での課題やそのあり方を検討するために、アカデミック・アドバイザー担当者間のミーティングを適宜開催する。 ○プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリクス等による、主体的学習支援のための環境整備 ・プログレス・ファイル及びカリキュラム・マトリクスについては、前述のアカデミック・アドバイザーシステムの中でその活用法を検討する。 ○厳格な成績評価及びGPA制度の履修指導への活用 ・留学生の授業料免除の判定や、一般学生の奨学金授与の判定資料としてGPAを活用する。 ・新学部における新しいカリキュラム制度の開始に伴い、教務履修に関するルールを教員への周知と、ルールに則った履修指導を進める。 ・履修の手引きを改善・充実し、ファーストイヤー・ゼミにおいてアカデミック・アドバイザーによる周知・指導を行う。 ・成績優秀者に対する履修制限の緩和についても、規則の制定と実施を行う。</p>	<p>1</p>	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○アカデミック・アドバイザーシステムの構築 ・AAの所掌事項を定め、マニュアルを作成した。 ・1年生のAA面談は4月と7月に行った。また、2年生のAA面談は6月と11月に行った。これにより、2年次後期からのコース選択を控えた国際教養学科・環境科学科の学生個々に対して、丁寧な学習指導を実施することができた。 ・1年生については、1年間同じ教員がAAとしてFYSのクラスを担当する方式を試験的に導入したところ、継続的に細やかな指導体制を確保でき、AAシステムの強化につながった。また3年次のAAのあり方についても協議した。 ・教員全員が最低週に1度のオフィスアワーを設け、学生の相談・質問に応じた。 ・AA・FYS運営会議を開催し、課題を出し合い、共通認識のもとに学生に対する助言を行った。 ○プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリクス等による、主体的学習支援のための環境整備 ・平成23年度に整備されたカリキュラムマトリクスのシステムに従い、ほぼすべての授業科目について、養うことのできる「福岡女子大学基礎力」の明示を行った。また、学生にFYSを通じて、プログレスファイルシステムを利用してプログレスファイルを作成し、自己評価による現状把握を促すよう促した。AAにはアドバイザー等でのプログレスファイルの活用を促した。 ○厳格な成績評価及びGPA制度の履修指導への活用 ・複数の教員が担当するFYSにおいて、厳格な成績評価を行うための基準を設けた。 ・留学生の授業料免除の判定にGPAを活用した。また、一般学生の奨学金授与判定資料としてのGPA活用について検討したところ、日本学生支援機構等の奨学金授与判定に必要な指標(標準修得単位数)をGPAを使用して算定することとし、平成25年度からの活用に向けて準備した。 ・AAが、担当学生のGPAを教務システムで確認し、学生の指導に役立てることが出来るようにした。 ・教務履修に関するルールについて、メール・掲示・教務システム等を利用して、学生・教員に対し複数回にわたり周知を行った。 また、履修の手引きの改訂を行い、FYSにおける履修指導に活用した。 ・1年時のGPAが3.0以上の2年生について、CAP制による履修制限の緩和を実施した。</p> <p>※プログレス・ファイル: 学生が各履修科目についての学習目標、成果、課題等について記入するファイル。 ※カリキュラム・マトリクス: 授業毎に獲得すべき能力・態度分布を明らかにした表。</p>	<p>B</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>・AAの所掌事項を定め、指導体制を充実させたこと ・AA面談を学年の状況(1年次は初年次のきめ細かな学習指導、2年次は後期のコース選択に向けた丁寧な学習指導)に合わせて実施する体制を構築したこと ・成績優秀者の履修制限の緩和を取り入れたことにより、学生の学習意欲が高まる効果が期待できる。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <p>・カリキュラムマトリクスとプログレスファイルの機能を教員と学生の間で十分には活用できなかった。</p>		5

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>6【全寮制教育による社会性・国際性の涵養】</p> <p>教育の場として学生寮を位置づけ、豊かな人間性や社会性を育むとともに、海外からの留学生との共同生活や交流を通して、国際感覚の深化と異文化コミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>・学生による自律的な寮運営体制の構築による主体性の育成 ・上級生の活用等による寮運営に係るサポート体制の充実 ・各種イベントや地域交流活動、留学生との共同生活を通じた異文化理解力、コミュニケーション能力、リーダーシップの育成</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○学生による自律的な寮運営体制の構築による主体性の育成 ・入寮オリエンテーションにおけるフロアリーダーの選出、フロアリーダー定例会、研修会の実施を支援する。 ・寮生による定例ミーティング(なでしこタイム)の設定、実施を支援する。 ・寮生の実態把握のため、アンケートを実施し、寮生にフィードバックする。 ○上級生の活用等による寮運営に係るサポート体制の充実 ・上級生で構成されたなでしこメイトにより、入退寮の支援、入寮オリエンテーションの企画・運営補助、寮イベントの企画・運営補助、寮生からの相談対応を行わせる。 ○各種イベントや地域交流活動、留学生との共同生活を通じた異文化理解力、コミュニケーション能力、リーダーシップの育成 ・寮生又は寮部会主催イベント、イングリッシュ・デイ、留学生の出身国のイベント実施を支援する。 ・寮生が地域活動を通して海外の支援活動に取り組む等の国際地域連携事業について、教職員で構成する寮運営部会が適宜助言・指導しながら、調査・企画を行わせる。 ○数値目標 ・フロアリーダー会議実施：月1回 ・寮運営部会・なでしこメイト会議実施：月1回以上 ・寮生の実態把握のためのアンケート実施及びフィードバック：年4回 ・寮生又は寮部会主催イベント実施：年10回以上 ・イングリッシュ・デイの実施：毎週1日 ・留学生の出身国のイベント実施：各国1回</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○学生による自律的な寮運営体制の構築による主体性の育成 ・入寮オリエンテーションにおいてフロアリーダーを選出したが、全員が新生であるため、フロアリーダー会議のみで活動計画の作成等を行うことは困難であった。そのため、毎週1回、フロアリーダー幹部(チーフリーダー1名・サブリーダー2名)と寮運営部会長及び部会員、なでしこメイトとの協議会を実施して、寮運営部会長等から指導・助言を行い、支援体制を充実させた。 ・寮生の体制図及び行動計画を作成させ、寮生による定例ミーティング(なでしこタイム)や各種イベントの実施が組織的・計画的な活動となるよう支援した。 ・寮生の実態把握のためのアンケートを4回、フィードバックを3回実施した。 ○上級生の活用等による寮運営に係るサポート体制の充実 ・なでしこメイト(4名)が入寮の支援、入寮オリエンテーションや寮イベントの企画・運営補助などを行った。 ・なでしこメイトやフロアリーダー等、寮生の企画・運営による前期終了パーティ、退寮パーティ等を開催した。 ○各種イベントや地域交流活動、留学生との共同生活を通じた異文化理解力、コミュニケーション能力、リーダーシップの育成 ・寮生等主催の講演会やイベントなどを18回開催した。その他、各フロアごとの交流会などを行った。 ・国際交流に係るイベントとして、WJCプログラム留学生との色紙交換会や、留学生との交流会などを行った。また、イングリッシュ・デイ実施日にイングリッシュ・ディナーパーティを5回開催し、その中で、留学生の出身国の紹介等のイベントを実施した。 ・地域交流活動として、防犯パトロール及び防犯講習会や、地域の祭りに参加した。 ・海外への支援活動等、国際地域連携事業の実施に向けて、寮生がNGO団体の研修等に参加し、その報告会を開催した。また、同事業に関する講演会の開催(2回)や、海外支援活動を行っているNPO法人主催の講演会に参加した。</p> <p>○目標実績 ・フロアリーダー会議実施：寮運営部会長・フロアリーダー幹部・なでしこメイト協議会(週1回実施)を受けて随時開催(2～3月に1回) ※数値目標は月1回フロアリーダー会議実施としていたが、4月から新生のみで活動計画の作成等を行うことは困難であるため、毎週1回、フロアリーダー幹部と寮運営部会長及び部会員・なでしこメイトとの協議会を実施し、その中で部会長等の指導・助言を得ながら、今後のイベント開催等の活動計画案を作成した。その上で、フロアリーダー幹部がフロアリーダーを招集してフロアリーダー会議を随時開催し、具体的な活動計画を話し合った。 ・寮運営部会・なでしこメイト会議実施：寮運営部会・なでしこメイト・フロアリーダー協議会として4回実施、寮運営部会を5回実施した。 ・寮生の実態把握のためのアンケート実施及びフィードバック：アンケート4回(合格時、入寮時、前期終了時、退寮時)、フィードバック3回(合格時分、入寮時分、前期終了時分)実施した。 ・寮生又は寮運営部会主催イベント実施：18回 ・イングリッシュ・デイの実施：毎週1日 ・留学生の出身国のイベント実施：5回(イングリッシュ・ディナーパーティ)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.15「学生寮」	6

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 グローバル社会の課題に対応した各学科の教育 グローバル社会の課題解決に貢献できる人材の育成を目指し、国際レベルから市民生活レベルに至るグローバル社会に対する知識・理解力の養成と、グローバル社会の今日的	1【学部共通専門教育の充実】 各学科共通して国際、環境、健康の知識・理解力を養うとともに、各学科の学びを有機的に関連させ、学習の深化を図る。	1-1【平成24年度計画】 ○学部共通専門科目の提供 ・平成24年度に新たに開講される下記の学部共通専門科目の履修を通して、国際教養、環境科学、食・健康についての知識・理解力を養い、各学科の学びを有機的に関連させる。 「食料経済学」 2年後期 「異文化理解」 2(、3、4)年前期 「社会調査法」 2(、3)年前期 「国際経済学」 2年後期 「生活と環境」 2年後期	1	【平成24年度の実施状況】 ○学部共通専門科目の提供 ・前期科目「異文化理解」(33名履修うち専門外の学生7名)・「社会調査法」(31名履修うち専門外の学生4名)を実施した。これらの科目の履修を通して、各学科(国際教養学科、環境科学科、食・健康学科)の学生に学科を超えて「グローバル社会に必要な基礎知識」を修得させた。 ・後期科目の「食料経済学」(60名うち専門外の学生25名)、「国際経済学」(120名うち専門外の学生34名)、「生活と環境」(135名うち専門外の学生74名)を実施した。各学科(国際教養学科、環境科学科、食・健康学科)の学生に学科を超えて「グローバル社会に必要な基礎知識」を修得させた。	A	【高く評価する点】 ・学部共通専門科目のうち、履修する科目の選択は学生に委ねられているが、多くの学生に専門外(所属学科以外)の授業を履修させることができ、文理統合の理念に基づく「グローバル社会に必要な基礎知識」を修得させた。		7

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>な課題に対応するため、国際教養学科、環境科学科、食・健康学科が連携して文理を統合した教育を行うとともに、各分野での卒業研究を頂点とする系統的な学びによって、深い知識と、その知識を活用できる論理的思考力を育成する。</p> <p>なお、平成23年度から入学者の募集を停止した、文学部、人間環境学部については、それぞれの人材育成目標に基づいた質の</p>	<p>2【国際教養学科の教育の充実(多様性を理解し国内外で幅広く活躍できる人材の育成)】</p> <p>国際教養学科が目指す人材を育成するため、5つの専門科目群(日本語文化、欧米言語文化、東アジア地域研究、国際関係、国際経済・マネジメント)を提供して専門的な知識・技術を深めさせるとともに、専門との関連性や関心に応じた学際的、横断的な学びを提供し、多様性への理解、自己の相対化、多元的なものの見方・考え方や柔軟な思考力を養成する。</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○専門科目群の提供と学際的、横断的な学びの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識・技術を深めさせるために、アカデミック・アドバイザーとカリキュラム・アドバイザーが連携して、各自の進路を見据えたコース選択ができるようなシステムを構築していく。 ・各履修コース内の専門科目及び関連科目が有機的に結びつくよう、FD活動を積極的に行う。 ・前期・後期ともに学年別のオリエンテーションを実施する。 1年次: 学科の理念と、理念に則したカリキュラムを理解させ、学習意欲を引き出す。 2年次: 後期のコース選択のため、各コースの特徴や他のコースとの関連を理解させ、自分の将来設計に相応しいコース選択に導く。 <p>特にコース分けに関する説明については、パワーポイント等を活用して各コースの目的や特徴がよく解るようにする。また、オリエンテーション終了後、希望に応じ個別にコース選択に関する面談を実施する。</p>	<p>1</p>	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○専門科目群の提供と学際的、横断的な学びの提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自の進路を見据えたコース選択ができるように、コース選択の前に希望するコースのCAと面談することを義務化し、「履修コース選択届」は専門分野や進路について考える契機となるような書式にした。また、コースを跨る履修モデル(例: 東アジア地域で活躍する日本語教師を目指すモデル)を作成・活用し、AA・CA面談において、より学生の希望進路に沿った履修指導を行う体制を整えた。 ・各履修コースにおいて、専門科目間の授業内容の連携や難易度設定等、科目同士の有機的な結びつきを図るため、会議や教員間の勉強会等を利用してFD活動を実施した。 ・学年別のオリエンテーションを以下の通り実施した。 <p>【1年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 学科オリエンテーション(学科及び履修コースについて概説。学科教員の紹介) 10月 後期オリエンテーション(学科の理念、履修コースの概念、各コースの専門性等を説明) <p>【2年次】</p> <ul style="list-style-type: none"> 4月 学科オリエンテーション(コース選択に向けての履修上の注意。教員の専門分野とキーワード) 5月 コース選択の手続き等の説明会、個別相談 7月 各コースのCA面談週間 10月 コース別オリエンテーション実施 	<p>A</p>	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年生について、学科オリエンテーション及びAA・CA面談の内容と実施時期の設定がうまく機能し、学生の希望に沿ったコース分けを実施することができた。 ・履修モデルは、学生が進路をイメージする上で非常に効果的であった。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		<p>8</p>

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>高い教育を継続して提供していくとともに、国際文理学部での教育内容や手法について、実施可能なものは積極的に取り入れる。</p> <p>(1)国際教養学科 グローバル時代の世界の社会や文化について学び、それらを相対的に捉える力と国際コミュニケーション能力を身に付け、国際共生の理念を踏まえ、国内外で文化交流、国際協力、ビジネス活動など、幅</p>	<p>3【国際化に対応できる実践的な外国語教育の実施(国際教養学科)】</p> <p>海外の大学への留学を見据え、国際化に対応できる異文化理解力と実践的な外国語コミュニケーション能力を養成する。特に、英語、中国語教育の充実・強化を図る。</p> <p>○達成目標 ・卒業時までのTOEFL点数:国際教養学科550点以上到達者50%以上</p>	<p>1-1【平成24年度計画】</p> <p>○英語教育の実施 ・「平成26年度(卒業時)TOEFL550点以上到達者50%以上」の目標を達成するために各年度ごとの数値目標を定める。平成24年度は550点到達者30%以上(2年生)を目指す。 ・AEPおよびアドバンスト・イングリッシュの教育内容が連動するよう検討を重ねる。 ・TOEFL対策講座を開く</p> <p>○中国語・韓国語教育の実施 ・教員の語学教授能力を高めるためのFDを実施する。 ・図書・DVD等の教育資料を新たに購入してその充実を図るとともに、本学学生に適した教材の開発に努める。 ・初級と中・上級科目の連関性を高めるための検討を行う。 ・中国語に関しては、より充実したきめ細やかな教育を実施するために2年生のクラスを1クラスから2クラスへ増設する。</p> <p>○数値目標 ・TOEFL550点以上到達者30%以上(2年生)</p>	<p>1</p>	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○英語教育の実施 ・国際教養学科の550点以上到達者30%以上(40人)の数値目標に対し、2年生 0名、1年生 1名(677点満点中、643点)という結果であった。 ・AEP(2年次前期まで)からアドバンスト・イングリッシュ(2年次後期から)への移行がスムーズに行われるよう、アドバンスト・イングリッシュ担当教員3名のうち2名がAEPを兼務した。 ・前期に、文法に特化したTOEFL対策講座を、模擬試験における成績に応じ2クラス設定し、それぞれ3回実施した。 後期には、4つのTOEFL対策講座を開講した。(500点コース全10回、400点コース全10回、文法強化コース全6回、リーディング強化コース全5回)</p> <p>○中国語・韓国語教育の実施 ・教員の語学教授能力を高めるためのFDを12月に開催した。(主な内容は教材の改善) ・中国語の学習到達レベル向上のため、使用教材を含めた授業内容の検討を行い、平成25年度の方針を決定した。 ・初級と中・上級の連関性を高めるために、11月(韓国語)、12月(中国語)にFDを実施した。 ・より充実した教育のために、前期「中国語V」後期「中国語VI」をそれぞれ2クラスに増設し、さらに実践力向上を図るため、いずれもネイティブスピーカーが担当した。 ・外国語学習の意欲を高めるための支援体制として、語学検定試験受験料の補助対象試験を増やし、中国語検定やハングル検定を受験した学生へも補助を実施した。</p> <p>○目標実績 ・TOEFL550点以上到達者(2年生) : 0名 ※1年生:1名(677点満点中、643点)</p>	<p>C</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 担当教員の努力によって、充実した外国語教育対策をスタートさせることはできたが、結果を出すために時間がかかることもあり、TOEFL試験結果については、その目標を達成することが出来なかった。</p>	<p>No.8「資格試験合格率、免許の取得」 (3)TOEFL試験の状況</p>	<p>9</p>

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>広い分野で積極的に活躍できる人材を育成する。</p> <p>(2)環境科学科 人間社会の「持続可能性」を実現するため、自然環境と人間社会が共生する環境調和型社会の創生を主要な目的として、自然科学と社会科学の文理に亘る学問的知識を統合して考える能力を習得させる。</p>	<p>4【環境科学科の教育の充実(環境調和型社会の実現に貢献できる人材の育成)】</p> <p>環境科学科が目指す人材を育成するため、4つの専門科目群(環境物質、環境生命、環境生活、国際環境政策)を提供して、具体的かつ専門的な解決策を講じることのできる能力を養成するとともに、専門との関連性や関心に応じた学際的、横断的な学びを提供し、環境問題を把握する総合的な能力を養成する。</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○専門的な問題解決能力を育成するための基礎学力の育成 ・数学・理科補習を実施し、基礎学力を育成する。</p> <p>○環境問題を把握する総合的な能力養成に向けた総合教育の推進 ・「環境科学概論」の講義を通して、4つの専門分野の専門性とそれらの関連性を学生に理解させ、環境科学における学際的・横断的な学びを推進する。 ・また、学科独自のアンケートを実施して、授業の内容や学びの理解度を検証するとともに、学びの深化を図るため、卒業研究にもつながるコース横断型の学習・研究プロジェクトを企画する。</p> <p>○数値目標 ・数学・物理・生物・化学の補習授業各12コマ(計48コマ)を実施する。</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○専門的な問題解決能力を育成するための基礎学力の育成 ・4月から7月にかけて1年生を対象とした数学・化学・生物・物理の補習をそれぞれ6限目に12回実施し、最終回にアンケートを実施した。補習回数、形式についても満足度は高いが、内容および受講効果の満足度を高めるためのさらなる工夫の必要性もある。</p> <p>○環境問題を把握する総合的な能力養成に向けた総合教育の推進 ・2年生に対して、4つの専門分野の専門性とそれらの関連性を理解させる「環境科学概論」を、学科教員全員のオムニバスで実施し、それを踏まえて、履修コース分けを実施した。 ・上記「環境科学概論」に合わせて、授業の内容、理解度などに関するアンケート調査を実施し、その内容を学科会議において全教員が共有した。また、学びの深化を図るため、卒業研究にもつながるコース横断型の学習・研究プロジェクトを2件設定し、平成25年度の3年生オリエンテーション等を利用して学生に周知を図ることとした。</p> <p>○目標実績 ・数学・物理・生物・化学の補習授業を各12コマ(計48コマ)を実施した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>・補習授業の実施については、環境科学科1年生の約78%が何らかの補習授業を受講し、70-80%の学生が役に立ったとの実感を得ている。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		10

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
<p>力を期待せ、国際化する多様な現代社会の中で環境や社会システムの問題を解決に導くことができる人材を育成する。</p> <p>(3)食・健康学科 食の安全・安心や食文化、人間の健康の維持・増進に関する専門知識・技能と併せて、多面的なものの方や考え方、総合的な判断力や創造</p>	<p>5【食・健康学科の教育の充実(食のグローバル化に対応できる人材の育成)】</p> <p>食・健康学科が目指す人材を育成するため、食の安全・安心や食に起因する「健康」の諸問題の解決に必要な知識・技術を習得させるとともに、食のグローバル化に対応できる国際性を養成する。</p> <p>○達成目標 ・管理栄養士国家試験合格率:全国平均+5%以上(外国人留学生を除く)</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○食と健康に関する専門教育の充実・改善 ・生物・化学補習の積極的な受講を促し、基礎学力の充実を目指す。</p> <p>○管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に沿った授業内容の充実・見直し ・昨年度に引き続き、管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を実施し、ガイドラインに従った授業内容となるよう充実を図る。</p> <p>・管理栄養士の国家試験合格率アップに向け、3年生後期からの国試対策講座実施の可能性を検討する。</p> <p>○国際性を養成するための英語教育の充実 ・韓国の梨花女子大学校との連携プログラム「国際食文化論」(英語による授業)を実施するとともに、新規の海外研修科目の設定について可能性を検討する。</p> <p>○数値目標 ・平成24年度については数値目標設定なし</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○食と健康に関する専門教育の充実・改善 ・生物・化学補習を行い、基礎学力の充実を図った。積極的な受講を促したが、受講者が少なかったため、今後学生への周知を更に工夫する必要がある。</p> <p>○管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に沿った授業内容の充実・見直し ・平成23年度に引き続き、管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を実施する予定だったが、実施できなかった。</p> <p>・管理栄養士国家試験の合格率アップに向け、3年次後期からの国試対策講座実施の可能性を検討した。平成24年度は、試験的に栄養健康科学科3年生に対し日本医歯薬研修協会の実力診断テストを導入し、問題点や効果などを検討した。</p> <p>○国際性を養成するための英語教育の充実 ・韓国の梨花女子大学校との連携プログラム「国際食文化論」(英語による授業)を実施し、充実した内容になった。</p> <p>・新規の海外研修科目について検討を行い、「グローバル化と私たちの食・環境(仮称)」(海外体験学習の1プログラム)の設定を決定した。(平成25年度にカリフォルニア大学デイビス校において実施する予定である。)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>・英語教育の充実のため、梨花女子大学校と英語による連携プログラムを実施した。また、新規の海外研修科目も実施の目処が立った。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <p>・管理栄養士国家試験出題基準に基づく授業内容の調査を実施する予定だったが、実施できなかった。</p>		11

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
力を身に付け、食のグローバル化が進む社会で、「食と健康」という人の生存に関する最も本質的な課題の解決に貢献できる人材を育成する。	6【学びの集大成としての卒業研究の重視】 学士課程4年間の学びの集大成として卒業研究を全学生に課し、思考力、課題解決能力を高めさせる。	1-1 【平成24年度計画】 ○卒業研究への取組 ・国際文理学部では、学びの集大成として、4年次に卒業研究を全学生に課すこととしており、その前段階として、2年次から卒業研究を視野に入れた以下の取組みを実施する。 ○国際教養学科 ・各履修コースにおいて、卒業研究を視野に入れた専門科目のFDを実施する。 ・検討チームを立ち上げ、専門演習Ⅰ・Ⅱ及び卒業研究演習のあり方を探っていく。 ・各コースが連携して、学際的なテーマを選ぶ学生のための履修モデルを作る。 ・学科オリエンテーション後、「卒業研究」を視野に入れた面談を行う。 ○環境科学科 ・卒業研究準備のための科目(「環境物質論および実習Ⅰ・Ⅱ」等：H25年度開講)の実施方法を具体化する。 ・卒業研究における学際的なテーマを探り、履修モデルを設定する。 ・アカデミックアドバイザーとの面談において、「卒業研究」を視野に入れた面談を行う。 ○食・健康学科 ・管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査及び整備を行い、専門科目教育の更なる充実を目指していく中で卒業研究につながる実験・実習のあり方をも探っていく。 ・研究室紹介(研究内容紹介)や学生からの研究内容の問い合わせ機会の設定など、卒業研究及び研究内容等の学生への周知徹底の方法等を模索する。 ・卒業研究発表会(4年生)の積極的な聴講を指導する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○卒業研究への取組 ・国際教養学科、環境科学科、食・健康学科：卒業研究を視野に入れた科目の実施方法の検討や学生に対する研究室選択に関する情報提供を進めた。 ○国際教養学科 ・各履修コースにおいて、卒業研究を視野に入れ、専門科目の教員間でFDを実施した。 ・平成23年度から継続して専門演習Ⅰ・Ⅱの在り方について検討した。特に、3年次に半年間留学する学生の対応についての方針を立てた。 ・各履修コースが連携して学際的なテーマの履修モデル(例えば、国際関係コースの履修モデル)を作成し、AA・CA面談に活用した。 ・履修コース選択前に面談週間を設定し、2年生にCAとの面談を義務化することにより、適切なコース選択の環境を整えた。 ・学科オリエンテーション(各学科の履修内容について説明)の後には、CA等による個別相談会を実施した。 ○環境科学科 ・卒業研究準備のための科目(「環境物質論および実習Ⅰ・Ⅱ」)の進め方について、各履修コースにおいて検討を行い、学科会議において全体の整合性について確認を行った。 ・卒業研究における学際的なテーマとして、「コース横断型の学習・研究プロジェクト」を2件企画し、併せてその研究を行うにあたり、履修を推奨する科目を設定した。 ・履修コース選択を9月末に確定した。これを基に研究室選択・卒業研究に向けた面談を実施した。 ○食・健康学科 ・管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を行う予定であったが実施できなかった。 ・学科会議等において、卒業研究の履修方法・研究室配属方法について検討し、平成25年度の研究室紹介(研究内容紹介)の実施方法について議論を行った。研究室配属にあたっては、希望する研究室を前もって訪問し、研究内容を十分理解した上で希望を決定するように、平成25年度の上級生オリエンテーション等で学生に周知することとした。 ・卒業研究発表会(4年生)を12月22日(土)に開催し、1、2年生にも参加・聴講するよう指導した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を行う予定であったが実施できなかった。		12

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	7【文学部及び人間環境学部の教育の充実】 文学部及び人間環境学部については、継続して質の高い教育を提供していくとともに、新学部の教育を活用して教育内容の充実に努める。	1-1 【平成24年度計画】 ○新学部開講科目の履修促進 ・文学部及び人間環境学部の学生が新学部の授業科目を履修できる制度を平成23年度に整備しており、学生に向けこの制度をさらに周知し、活用を図る。 ○EUディプロマコースへの登録促進 ・平成23年度から始まったEU-IJ九州(本学、九州大学、西南学院大学で相互に関連科目の履修を承認)が提供する科目群や国内外の研修会の履修・参加を促し、国際化関連科目(特にEU圏)の多様化と充実を図る。 ○未履修科目の再開講 ・文学部及び人間環境学部の学生の平成23年度未履修科目については、科目の再開講、新学部科目の読み替えなどにより、履修を完結させる。 ○栄養健康科学科における管理栄養士ガイドラインに沿った授業内容の充実・見直し ・昨年度に引き続き、管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を実施し、ガイドラインに従った授業内容となるよう充実を図る。 ・管理栄養士国家試験の合格率アップに向け、3年生後期からの国試対策講座実施の可能性を検討し、可能であれば実施する。 ○数値目標 ・国際関連科目の履修学生数 40名 ・EUディプロマコース登録学生数 25名 ・管理栄養士国家試験合格率 全国平均+5%以上	1	【平成24年度の実施状況】 ○新学部開講科目の履修促進 ・文学部及び人間環境学部の学生が新学部の授業科目を履修できる制度の周知により、旧学部学生が新学部開講の「海外語学研修I・II」等の科目を着実に履修した。また、平成24年度に、社会福祉主事任用資格取得のための「個別認定科目」として厚生労働省から認定を受けた新学部科目を、旧学部の学生が資格取得のために履修した。 ○EUディプロマコースへの登録促進 ・EUディプロマコースには、文学部の学生42名が登録し、本学及び連携大学でEUについての学習・研究を行った。そのうち3名がディプロマの要件を満たし修了認定を受けた。 ○未履修科目の再開講 ・旧学部の1・2年生科目について、再開講を前期に20科目、後期に14科目、新学部と同時開講を前期に53科目、後期に54科目実施し、旧学部生の未履修科目の単位修得を図った。 ○栄養健康科学科における管理栄養士ガイドラインに沿った授業内容の充実・見直し ・昨年度に引き続き、管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を実施する予定だったが、実施できなかった。 ・管理栄養士国家試験の合格率アップに向け、3年次後期からの国試対策講座実施の可能性を検討し、日本医歯薬研修協会の実力診断テストを実施し、29名が受験した。 ○目標実績 ・国際関連科目の履修学生数 : 13名 ・EUディプロマコース登録学生数 : 42名 ・管理栄養士国家試験合格率 : 96.6%(全国平均82.7%) ○文学部の国際関連科目の履修学生数については、その数値目標(40名)を達成できなかった。しかし、後期に開催されたEU国際会議への参加やWJC授業の履修を促し、国際的な視野の醸成を図ることができた。	B	【高く評価する点】 ・管理栄養士国家試験の合格率は、数値目標の全国平均+5%をはるかに超える96.6%であった。昨年度に引き続き高い合格率を実現した。 【実施(達成)できなかった点】 ・文学部の国際関連科目の履修学生数については、数値目標(40名)を達成できなかった。しかし、後期に開催されたEU国際会議への参加やWJC授業の履修を促し、国際的な視野の醸成を図ることができた。 ・管理栄養士国家試験出題基準(ガイドライン)に基づく授業内容の調査を実施する予定だったが、実施できなかった。	No.8「資格試験合格率、免許の取得」(1)管理栄養士国家資格試験合格率	13

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>2【文学研究科及び人間環境学研究科の教育の充実】</p> <p>文学研究科においては、文化・歴史・社会などに関する総合的な知識を背景に、国文学・英文学分野において、専門性の高い文学・語学の教育研究に寄与できる人材を育成する。人間環境学研究科においては、「環境」及び「健康」を基本テーマとした自然科学的視点から高度の教育・研究を目指し、特色ある分野において、より広い視野と専門性を身につけた人材を育成する。</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○長期履修制度の充実(文学研究科・人間環境学研究科) ・職業を有す等の理由で研究活動に制限を受ける社会人大学院生のための長期履修制度を充実するとともに、受入れ体制(夜間・休日開講等)を工夫するなど教育・研究環境の改善を図る。</p> <p>○文学研究科の教育の改善・充実 ・専攻内のFD活動を充実し、個々の学生の能力や要望を教員間の共通認識として、授業内容の刷新、改善・工夫に努める。 ・大学間交流協定(同済大学)による交換留学生と本学大学院生との交流を盛んにし、研究討論により一層国際的な視点を取り込む。</p> <p>○人間環境学研究科の教育の充実 ・人間環境学研究科の全教員が取り組んでいる人間環境学研究の紹介(特論)と、学生が自分の研究を発表する特別演習を充実させ、研究科全体として大学院教育の活性を高める。 ・4大学コンソーシアム「国公立大学コンソーシアム・福岡」等を利用しての他大学院講義履修により、学生の幅広く質の高い研究を推進する。 ・臨床栄養士資格取得のための大学院カリキュラムを創設・実施する。</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○長期履修制度の充実(文学研究科・人間環境学研究科) (文学研究科) ・長期履修制度については、募集要項をはじめとする様々な媒体を用いて周知に努めるとともに、受入れには柔軟な授業時間を組むなどの体制を整えた。 (人間環境学研究科) ・環境理学専攻は1名、栄養健康学専攻は4名がこの制度を利用しており、有効な制度として機能した。</p> <p>○文学研究科の教育の改善・充実 ・学問の動向、学界の潮流を教育指導に反映させるべく、折々にFD活動を実施した。 ・国文学専攻科においては、交流協定校(同済大学)から前後期とも2名の院生を受け入れたことにより、国際的視点での研究討議が可能となり、授業が充実した。</p> <p>○人間環境学研究科の教育の充実 ・人間環境学特論を、修士1年生の全員(環境理学2名、栄養健康科学7名)が履修・単位修得した。 ・4大学コンソーシアムについては、単位互換科目のみならず、合同ゼミなど様々な活動に、学生・教員・職員ともに積極的に参加した。 ・臨床栄養師資格取得のために、「臨床栄養師特別研修Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」を開講し、2名の学生が「臨床栄養師特別研修Ⅰ」を受講した。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.22「大学間連携」	15

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
4 教員の教育能力の向上 福岡女子大学が理念とする国際性を備えた人材の育成に向けて、教育・学習支援センターが中心となり、教育の質を向上させるシステムを構築する。	1【教育成果の検証】 プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリックス、また、学生による授業評価を活用して、教育成果を検証する。 ○達成目標 ・学生による授業アンケート回収数:全員回収	1-1【平成24年度計画】 ○プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリックス、学生による授業評価を活用した教育成果の検証 ・プログレス・ファイル及びカリキュラム・マトリックスを運用し、それが大学の教育成果の向上と把握にどのように活用できるのかを点検する。 ・学生による授業評価を活用して、教育成果を検証する。 ○数値目標 ・学生による授業アンケート回収数:全員回収	1	【平成24年度の実施状況】 ・平成23年度に整備されたカリキュラムマトリックスとプログレスファイルのシステムに従い、ほぼすべての授業科目について、養うことのできる「福岡女子大学基礎力」の明示を行った。また、プログレスファイルシステムを利用して、学生にプログレスファイルを作成させ、自己評価による現状把握を促し、AAにはアドバイス等での活用を促した。 ・学生に対する授業アンケートを7月末に実施した。授業アンケートは、統計処理し、全学に公開した。また、教員へは、教育成果検証のために担当科目のアンケート結果をフィードバックした。併せて、学生が率直に回答でき、教員が教育成果を検証しやすい授業アンケートの取り方についても引き続き検討していくこととした。 ○目標実績 ・学生による授業アンケート回収数 : 88.3% (アンケート回収数16,000/アンケートを実施した科目の履修登録者数18,117)	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】 ・カリキュラムマトリックスとプログレスファイルのシステムを教員と学生の間で十分に活用することができなかった。	No.9「学生による授業評価」	16

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	<p>【FDによる教育の改善】 教育成果の検証を踏まえ、FDに関する年度計画の策定、実施、レビューを一貫して行うことにより、教育の改善・質保証を図る。 ア.人材育成目標の達成に向けたFDの目的の共有化 イ. FDの現状分析による課題の抽出と今後の目標、方法・手段の設定 ウ. 「イ」に基づく各種活動の実施 ・国際性の意識向上を含めたFDに関する研修会やワークショップの実施 ・FD研修の内容に対する理解度のチェック ・学生による授業評価結果の公表、教員相互の授業参観等による授業方法の改善 ・教育課程、評価方法、教員組織等の改善 ○達成目標 ・FD研修参加率:100%</p>	1-1	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○FD研修会の実施 FD研修5回 ①4/3:学部報告会 68名 ②5/8:学長講演 69名 ③6/5:日本赤十字九州国際看護大学学長講演 61名 ④8/7:文部科学省高等教育局高等教育企画課国際企画室国際企画専門官講演 31名 ⑤9/26:個人情報保護に関する研修 42名</p> <p>○FDに係るアンケート調査の実施 未実施</p> <p>○公募型FDの実施 新学部開設2年目で開講授業数が少なかったことから公募は行わないこととしたが、FYS合同プレゼン大会を公開授業として6回開催した。</p> <p>○学生による授業評価の公表 前期に係るアンケート結果は、統計処理を行い、全学に公表した。併せて、教員へは担当科目についての結果を開示した。 後期に係るアンケートを集計後、前期の結果と合わせて、ホームページにて公表予定である。(ホームページ掲載は平成25年度)</p> <p>○目標実績 ・FD研修参加率 : 100%</p>	B	<p>【高く評価する点】 ・年度計画の4回を上回る5回のFD研修会を開催し、教員の積極的な参加により、参加率は100%となっている。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】 アンケートに取り組むことができなかった。</p>	No.10「FD」	17

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5 意欲ある学生の確保 大学のアドミッションポリシーに適った意欲の高い学生を確保するため、入試方法を継続的に点検・見直すとともに、国内外における戦略的な広報活動を展開する。	1【入試方法等の工夫・改善】 大学のアドミッションポリシーに適った、高い意欲と基本的な学力を有した国内外の優秀かつ多様な学生を確保するため、入試方法等の継続的な点検・見直しを行う。また、女性の再学習への支援という観点から、社会人の受入を積極的に行う。 ・選抜方法の点検・見直し ・国内の日本語学校との連携、及び日本留学試験を利用した渡日前入学許可制度を活用した留学生の確保 ・海外及び県外における入学試験の検討・実施・改善 ○達成目標 ・一般入試志願倍率(学科別)・・・(志願者数/募集人員):国際教養学科 5.0倍以上 環境科学科 3.5倍以上 食・健康学科 5.0倍以上 ・一般入試辞退率(学部全体)・・・(合格者のうち辞退者数/合格者数(追加合格を除く)):15%以下 ・留学生志願倍率(学部全体):2.5倍以上	1-1【平成24年度計画】 ○選抜方法の点検・見直し ・推薦入試、私費外国人留学生入試の実施日等実施方法の改善を行う。 ・学習指導要領の改訂に伴う選抜方法の検討を行うとともに、種々の入試で入学した学生に対する追跡調査(入試区分の違いによる学力等のその後の状況確認)を実施し、更に選抜方法の点検・見直しを行う。 ○海外及び県外における入学試験の検討・実施・改善 ・渡日前入学を実施する国としては、昨年「志願者」実績のある韓国を検討する。その他の試験候補地は、現状を踏まえ、検討する。(2カ国) ・国内における県外の入試会場については、現状の志願者の志願状況を分析した上で検討する。 ○国内の日本語学校との連携、及び日本留学試験を利用した渡日前入学許可制度を活用した留学生の確保 ・海外で入試を行う2カ国は積極的に留学フェア(進学相談会)に参加する。 ・日本で行われる留学生向け進学相談会に参加する。(福岡、東京、大阪)また、「日本語学校」への渉外を通じて、留学生への入試広報活動を強化する。 ○数値目標 ・一般入試志願倍率(学科別)・・・(志願者数/募集人員): 国際教養学科 5.0倍以上 環境科学科 3.5倍以上 食・健康学科 5.0倍以上 ・一般入試辞退率(学部全体)・・・(合格者のうち辞退者数/合格者数(追加合格を除く)):15%以下 ・留学生志願倍率(学部全体):2.5倍以上	1【平成24年度の実施状況】 ○選抜方法の点検・見直し ・推薦入試の出願時期を、「センター試験の成績請求表」が受験生のもとに到着した後に、出願できるように受験生に配慮して設定した。また、留学生試験の出願時期については、留学生の進路動向及び日本語学校の意見を反映して、出願しやすい時期(11月末～12月上)とし、入試日も2月に設定し、実施した。 ・平成27年度からの学習指導要領の変更に伴う選抜方法は、学内で協議し、7月にはホームページ上で「センター試験の選択科目」について公表した。学生への追跡調査に関しては、現在1、2年生のみの在籍のため、完成年度(2年後)の実施に向けて検討することとした。また、選抜方法の点検・見直しについては、入試終了後速やかに課題を抽出し、改善に向けて取り組んでいる。 ○海外及び県外における入学試験の検討・実施・改善 ・渡日前入学試験は、平成23年度に志願者実績のある韓国と、日本留学試験の結果及び福岡県との関係を踏まえてベトナムの2ヶ国で実施を計画し、最終的に出願があった韓国のみ実施した。 ・県外の入試試験会場については、現状の他県からの志願者状況を考慮し、平成24年度は実施せず、継続的に実施の可能性を検討することとした。 ○国内の日本語学校との連携、及び日本留学試験を利用した渡日前入学許可制度を活用した留学生の確保 ・海外での留学フェアに関しては、入試の実施予定国である2ヶ国(韓国・ベトナム)を含め、5ヶ国・地域(ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア)10会場に参加した。 ・国内での「留学フェア」については、7月に東京・大阪・福岡で行われたイベント(17回)に参加したのと併せて周辺日本語学校(27校)への渉外活動を実施した。特に福岡地区については、複数回の日本語学校への渉外活動を通じて、信頼関係の構築に努めた。 また、「留学生に対する募集広報活動」を積極的に推進するため、日本語学校・他大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を実施し、210名の留学生が参加した。 ○目標実績 ・一般入試志願倍率(学科別)・・・(志願者数/募集人員): 国際教養学科 5.6倍(549/98) 環境科学科 3.54倍(177/50) 食・健康学科 5.72倍(143/25) ・一般入試辞退率(学部全体)14.2%(30/211) ・留学生志願倍率(学部全体)1.5倍((25+5)/20)	B	【高く評価する点】 ・一般入試志願倍率、辞退率がともに目標を上回っており、本学への進学意欲の高い学生を安定的に獲得できていることが予測される。 ・海外での留学フェア(進学相談会)に積極的に参加し、目標を超える5カ国・地域10会場(ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア)に参加した。 ・今までほとんどやりとりがなかった日本語学校への渉外活動にも力を入れ、約30校を訪問した。福岡地区の日本語学校へは複数回訪問し、信頼関係の構築に努めた。 ・「留学生に対する募集広報活動」を積極的に推進するため、日本語学校・福岡の7大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を実施した。これは、本学においては初めての取り組みであり、他大学では実績のない企画である。また、東京・大阪でしか留学フェアを開催しないJASSOの協力を得たことにより、当該進学フェアの価値を更に高めることに成功した。 【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学者選抜試験(学部)」	18	

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	<p>【国内外における戦略的な広報活動の展開】</p> <p>優秀な日本人学生や外国人学生を確保するため、高大連携を推進するとともに、各種メディアや大学案内等の活用、また、オープンキャンパスや高校訪問等の実施、さらには、海外における留学フェアへの参加等、積極的な広報活動を展開し、国内外での知名度を高める。</p> <p>また、大学ブランドの構築のため、大学に対する価値観について、学内での共有化を図るとともに、学外への理解・浸透をはかる。さらに、大学のシンボルマークや校名ロゴなど、大学が伝えたいイメージを視覚的に表現する図案を作成し、大学の統一したイメージを確立する。</p> <p>(国内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 各種メディア、ホームページ、大学案内等の活用 オープンキャンパス、学校見学会、高校訪問の実施、入試説明会への参加 高大連携による出前講義等の実施 <p>(国外)</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページ、大学案内等の活用 海外における留学フェアへの参加 海外提携大学や本学への留学経験者等への継続的な情報発信 <p>(国内外共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学ブランドイメージとビジュアルアイデンティティの確立(UI戦略) <p>○達成目標</p> <p>(国内)</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内イベント(オープンキャンパス、学校見学会等)参加者:年1,300名以上 学内イベント満足度:年90%以上 	1-1	<p>【平成24年度計画】</p> <p>○国内(日本人)</p> <ul style="list-style-type: none"> メインの広報対象である「高校生」を中心に、関係者(保護者、一般、高校教員)毎に、メディアミックスで広報する。 ①高校生(認知に向け)への広報:進学メディアを利用 ②高校生(興味・関心者)への広報:大学案内、WEB、イベントを利用 ③保護者、一般への広報:マスメディア(新聞、看板等)を利用 ④高校教員への広報:渉外活動を利用 <ul style="list-style-type: none"> 高大連携を図るため、県内の高校に本学の出張講義内容を送付する等して、本学教員の派遣要請を促す。 <p>○国外(外国人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国外向けホームページ、大学案内の充実を図る(英語版の制作)。 入試を行う2カ国を含め、海外で実施される留学フェア(進学相談会)に参加する(4カ国以上)。 海外提携大学や本学への留学経験者等に対し、メール等を活用した大学の情報提供を行う。 <p>○国内外共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 大学ブランド・イメージとビジュアル・アイデンティティの確立に向け、現状の確認と今後のスケジュールの立案を行う。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内イベント(オープンキャンパス、学校見学会等)参加者:年1,300名以上 学内イベント満足度:年80%以上 高校訪問数:年120件以上 学外進学説明会開催数:年40件以上 出前講義数(体験授業含む):年30件以上 出前講義アンケート良好評価:90%以上 一般入試志願倍率(学科別)・・・(志願者数/募集人員): 国際教養学科 5.0倍以上 環境科学科 3.5倍以上 食・健康学科 5.0倍以上 海外における留学フェア参加者:年50名以上 留学生志願倍率(学部全体):2.5倍以上 	2	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○国内(日本人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 広報については、各種メディアを利用して年度計画どおりに実施し、全ての数値目標を達成した。 高大連携については、7月に県内の高校に出前講義一覧表(教員名、講義内容等)、申込書様式を送付した。その後、高校からの要請を受け講師を積極的に派遣した。 <p>○国外(外国人)</p> <ul style="list-style-type: none"> 英語版のホームページに関しては随時改訂を行い、内容の充実を図った。英語版の大学案内については、「8つ折りのリーフレット」を改訂して作成した。 海外での留学フェアに関しては、入試の実施予定国である2ヶ国(韓国・ベトナム)を含め、5ヶ国・地域(ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア)の10会場に参加した。また、ベトナムとインドネシアに関しては、日本語教育を行っている機関を訪問し、本学の情報を提供した。 協定校及び帰国留学生には、メールにて本学の情報を提供した。また、春季の語学・文化研修催行の際に、協定校を訪問して情報提供を行い、帰国留学生との懇談も行って、本学の情報を提供した。 <p>○国内外共通</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の置かれている現状や強みを確認し、大学ブランド・イメージとビジュアル・アイデンティティの確立に向けた、今後の進行スケジュールについて検討した。平成24年度は、先行して実施できる広報項目として、「本学の沿革」と「大学紹介」の2種類のDVDを新たに作成した。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内イベント(オープンキャンパス、学校見学会等)参加者 : 2137名 学内イベント満足度 : 年 90.6% 高校訪問数 : 年134件 学外進学説明会開催数 : 年62件 出前講義数(体験授業含む) : 年76件(出前:46件+体験:30件) 出前講義アンケート良好評価 : 97.2% 一般入試志願倍率(学科別)(志願者数/募集人員) 国際教養学科 549/98=5.6(倍) 環境科学科 177/50=3.5(倍) 食・健康学科 143/25=5.7(倍) 海外における留学フェア参加者相談者が5ヶ国で314名(ベトナム:112+台湾:26+韓国:35+タイ:41+インドネシア:100) 留学生志願倍率(学部全体) : (25+5)/20=1.5倍 	B	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学内イベントの参加者数が2137名(昨年1774名)と2000名以上となり、大きく増加している。これは、平成24年度の広報活動の成果であり、本学に興味・関心を持つ高校生等が大幅に増加し、本学のブランド力が向上していると推測される。 海外で開催された進学相談会(留学フェア)に本学としては初めて参加した。また目標以上の5ヶ国10会場に参加し、314名の相談者を得る事ができた。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <p>留学生の志願倍率については、目標に届かなかった。しかしながら、2月の入試だけでは、募集人員を確保できなかったため、急遽3月にも留学生入試を実施し、最後まで目標達成に向けて努力をした。</p>		19

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	60%以上 ・高校訪問数:年120件以上 ・学外進学説明会開催数:年40件以上 ・出前講義数(体験授業含む):年30件以上 ・出前講義アンケート良好評価:年90%以上 ・一般入試志願倍率(学科別)・・・(志願者数/募集人員): 国際教養学科 5.0倍以上 環境科学科 3.5倍以上 食・健康学科 5.0倍以上 (国外) ・海外における留学フェア参加者:年50名以上 ・留学生志願倍率(学部全体):2.5倍以上							

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
6 学生支援の充実	<p>1【主体的学習を支援する体制の構築及び学生生活の支援】</p> <p>学生自らが、学習目標に沿って主体的かつ体系的に履修できるよう、入学時から卒業までの継続的かつ一貫した学習指導・助言を実施するアカデミック・アドバイザーシステムを構築するなど、それぞれの学生の実情に応じたきめ細やかなサポートを行う履修指導体制を構築する。</p> <p>また、新校舎の整備とも併せ、学術情報の充実など国際的な大学として相応しい学生の自主学習の環境整備を推進するとともに、学生のメンタルヘルスを含めた健康管理や、クラブ活動等の課外活動に対する支援など、学生生活に対する支援を充実する。</p> <p>・プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリックス等による、主体的学習支援のための環境整備</p> <p>・アカデミック・アドバイザーシステムの構築</p> <p>・厳格な成績評価及びGPA制度の履修指導への活用</p> <p>・学術情報センターの充実(国際化に対応した図書・資料や情報システムの充実、ラーニングコモンズの設置)等、国際的な大学に相応しい学習環境の整備</p> <p>・学生のメンタルヘルス等の健康管理の充実</p> <p>・サークルやクラブ活動等の課外活動に対する支援強化</p>	1-1	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○アカデミック・アドバイザーシステムの構築</p> <p>・AAの所掌事項を定め、マニュアルを作成した。</p> <p>・1年次のAA面談は4月と7月に行った。また、2年生のAA面談を6月と11月に実施した。これにより、2年次後期からのコース選択を控えた国際教養学科・環境科学科の学生個々に対して、丁寧な学習指導を実施することができた。</p> <p>・1年生については、1年間同じ教員がAAとしてFYSのクラスを担当する方式を試験的に導入したところ、継続的に細やかな指導体制を確保でき、AAシステムの強化につながった。また3年次のAAのあり方についても協議した。</p> <p>○プログレス・ファイルやカリキュラム・マトリックス等による、主体的学習支援のための環境整備</p> <p>・平成23年度に整備されたカリキュラムマトリックスのシステムに従い、ほぼすべての授業科目について、養うことのできる「福岡女子大学基礎力」の明示を行った。また、プログレスファイルシステムを利用して、学生にプログレスファイルを作成させ、自己評価による現状把握を促し、AAにはアドバイス等での活用を促した。</p> <p>・教員全員が最低週に1度のオフィスアワーを設け、学生の相談・質問に応じた。</p> <p>・AA・FYS運営会議を開催し、課題を出し合い、共通認識のもとに学生に対する助言を行った。</p> <p>○厳格な成績評価及びGPA制度の履修指導への活用</p> <p>・複数の教員が担当するFYSにおいて、厳格な成績評価を行うための基準を設けた。</p> <p>・留学生の授業料免除の判定にGPAを活用した。</p> <p>一般学生の奨学金授与判定資料としてのGPA活用について検討したところ、日本学生支援機構等の奨学金授与判定に必要な指標(標準修得単位数)をGPAを使用して算定することとし、平成25年度からの活用に向けて準備した。</p> <p>・AAが、担当学生のGPAを教務システムで確認し、学生の指導に役立てることができるようになった。</p> <p>・教務履修に関するルールについて、メール・掲示・教務システム等を利用して、学生・教員に対し周知を行った。</p> <p>また、履修の手引きの改訂を行い、FYSにおける履修指導に利用した。</p> <p>・1年時のGPAが3.0以上の2年生について、CAP制による履修制限の緩和を実施した。</p> <p>○学術情報センターの充実(国際化に対応した図書・資料や情報システムの充実、ラーニングコモンズの設置)等、国際的な大学に相応しい学習環境の整備</p> <p>・新学部開設に伴う新たな学問分野を中心とした資料の収集を行う。</p> <p>・図書館の移転に関する事前調査(全館一斉の蔵書点検)を行う。</p> <p>・新図書館に設置するラーニングコモンズの運用方法等の検討を行う。</p> <p>○学生のメンタルヘルス等の健康管理の充実</p> <p>・メンタルヘルス相談体制強化のため、学生相談室開設時間を延長する。また、保護者、教職員と学生相談員の相談時間を設ける等、連携を強化する。</p> <p>・ホームページ、教務システムを活用して保健室、学生相談室の周知を行う。</p> <p>○サークルやクラブ活動に対する支援強化</p> <p>・サークル棟の整備、及び体育館改築に伴いサークル活動場所の確保にかかる助成費用を後援会に要請するなどして、サークル活動の活性化を促進する。</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <p>カリキュラムマトリックスとプログレスファイルを教員と学生の間で十分には活用できなかった。</p>	No.11「図書館」 NO.16「課外活動の状況」	20

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	<p>【就職支援体制の充実・強化】</p> <p>学生が社会で自らの生き方を切り拓くことができるよう、学生の職業意識を醸成するとともに、教職員が連携を密にして就職に向けた指導・支援体制の充実・強化を図る。併せて、有力な就職先を確保するために、教職員による企業訪問を実施する。また、優秀な留学生を確保する観点からも留学生の就職支援を積極的に推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職業意識を醸成するためのインターンシップ先の開拓、講演会の実施等 ・就職対策講座の実施 ・就職先企業の開拓 ・既卒者に対する就職支援(卒後1年間) ・留学生のインターンシップ受入企業等の開拓 ・留学生向けのビジネス日本語やビジネスマナーを教授する体制の整備 ・留学生向け会社説明会及び求人情報の発信 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加者数:(新学部生の動向を踏まえ、年度計画で設定) ・訪問企業数:年50社以上 ・留学生向け会社説明会:年2回以上 ・就職率(日本人学生)・・・(就職者数/就職希望者数):全国平均以上 ・就職率(留学生)・・・(就職者数/就職希望者数):(卒業生の実績を踏まえ、年度計画で設定) 	1-1	<p>【平成24年度計画】</p> <p>○職業意識を醸成するためのインターンシップ先の開拓、講演会の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ先の情報収集と学生への情報提供を行う。 ○就職対策講座の実施 ・3年生を中心に年間を通じ就職対策講座を開催する。(月1回程度) ・「国際文理学部」の1期生向けには、早期に職業意識を醸成するために、「秋からのキャリア支援講座」の実施や「夏季・春季のインターンシップ」の参加の推進を行う。 また、海外でのインターンシップの情報収集と情報提供を行う。 ○就職先企業の開拓 ・企業訪問により就職先を開拓する。 ○既卒者に対する就職支援(卒後1年間) ・既卒者(希望者)に対し就職情報を提供するとともに個別の相談対応も行う。 ○留学生のインターンシップ受入企業等の開拓 ・留学生のインターンシップ受入企業の情報収集を行う。 ○留学生向けのビジネス日本語やビジネスマナーを教授する体制の整備 ・留学生向け「就職支援講座」(学内外)の情報収集と計画立案を行う。 ○留学生向け会社説明会及び求人情報の発信 ・留学生向け「就職支援対策」の情報収集と計画立案を行う。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加者数:1学年定員(当該年度の3年生)の30% ※参加者数は、1年生～4年生までの合計数 ・訪問企業数:年50社以上 ・就職率(日本人学生)・・・(就職者数/就職希望者数):全国平均以上 ・留学生向け会社説明会:平成24年度は実施しない。(25年度に向け準備) ・就職率(留学生)・・・(就職者数/就職希望者数):平成24年度は卒業生がいないため、設定しない。 	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○職業意識を醸成するためのインターンシップ先の開拓、講演会の実施等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・九州インターンシップ協議会での夏季と春季におけるインターンシップ情報を中心にタイムリーに学生へ提供した。また、企業と連携した個別のインターンシップ先の開拓も行った。また、経済産業省が実施する「海外でのインターンシップ」の情報を提供した。 ○就職対策講座の実施 ・3年生を中心に4月から月に1回のペースで、就職対策講座を実施した。本学の学生の現状を把握した上で、講座内容や到達目標を設定し、外部業者の協力を得て実施した。講座以外にも、本学OGを招き、「OGカフェ」「OG懇談会」を開催したほか、在学生(4年生)による「内定者懇談会」を複数回実施した。また、本学学生の希望を確認し、関東の企業(全日空・協和発酵キリンなど)を含め23社の「学内企業説明会」を開催した。 ・国際文理学部1期生(2年生)向けに、後期に「キャリア支援講座」を4回実施した。講座の中で、社会体験の必要性を伝え、2年生の春のインターンシップの参加を推進した。 ○就職先企業の開拓 ・就職先企業の開拓のため、目標の2倍の100社の企業訪問を実施した。福岡だけでなく、首都圏や関西の企業も訪問した。 ○既卒者に対する就職支援(卒後1年間) ・既卒者(希望者)に対し、既卒求人の就職情報を随時提供した。 ○留学生のインターンシップ受入企業等の開拓 ・「留学生サポートセンター」や「JASSO」「九州経済産業局」等から情報収集を行った。 ○留学生向けのビジネス日本語やビジネスマナーを教授する体制の整備 ・「留学生のための就職支援セミナー」を2月に2回開催した。 ○留学生向け会社説明会及び求人情報の発信 ・「留学生サポートセンター」や「JASSO」「九州経済産業局」等から情報収集を行い、平成25年度の就職支援対策について検討した。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ参加者数 : 36.1%(65名/180名) ※参加者数は、1年生～4年生までの合計数 ・訪問企業数 : 100社 ・就職率(日本人学生)・・・(就職者数/就職希望者数) 94.2%(130名/138名)学部生 ※全国平均 93.9% ・留学生向け会社説明会 : 平成24年度は実施しない(平成25年度に向け準備) ・就職率(留学生)・・・(就職者数/就職希望者数) : 平成24年度は卒業生がいないため、設定しない 	A	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就職先企業の開拓のため、目標の2倍の100社の企業訪問を実施した。 ・首都圏や関西の企業へも訪問し、関東の企業(全日空・協和発酵キリンなど)を含む23社の「学内企業説明会」実施を実現した。 ・インターンシップへの参加を積極的に推進し、65名が参加した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.14「インターンシップ」 No.17「企業訪問」 No.18「就職状況」	21
		ウエイト総計	24年度 24			項目数計	24年度 21		

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

「1-1-2-1」、「1-1-3-1」

本項目は、中期目標で指示された重点事項である、国際文理学部の教育理念を実現するための新しい教育システムの構築に向けた取り組みであり、本学が理念とする国際的に活躍できる人材を育成する上で特に重要な取り組みとして重点施策に位置づける。

「1-5-2-1」

本項目は、中期目標で指示された重点事項である、国内外での戦略的な広報活動の推進による「福岡女子大学」ブランドの構築に向けた取り組みであり、重点施策に位置づける。

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		

教育に関する特記事項(平成24年度)

① 体験学習を履修している学生19名が正課外の活動として、TEDx Fukuoka Womenに企画運営スタッフとして参加し、体験学習の学びを発展させ、主体性を持って積極的に活動したことから、イベントの開催事務局から高い評価を得た。
 ※TEDx Fukuoka Women:「広めるべきアイデアを共有すること」を目的に活動するTED(Technology Entertainment Design)が、ワシントンDCにおいて実施する非営利イベント「TEDx Women」に合わせ、TEDx Fukuokaが福岡で組織し、『女性』にフォーカスを当てて発信するイベントで、本学を会場に開催された。

年度計画項目別評価

<p>中期目標 2. 研究</p>	<p>「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」</p> <p>国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域社会及びグローバル社会の発展に有用な研究を重点的に推進する。 研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。</p>
-----------------------	---

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
<p>1 特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究の推進</p> <p>時代の要請に応じ、先駆的・独創的研究や社会貢献の大きい研究を支援する体制を整備して、「グローバル社会」「環境調和型社会」「食の安全と健康の保持増進」に関する研究を推進し、社会の活性化を支援する。併せて外部研究資金の獲得を積極的に推進する。</p>	<p>1【予算の有効活用等による研究の充実・活性化】</p> <p>大学の特色ある教育や地域社会及びグローバル化社会の発展に寄与する研究を推進すべく、学内予算の有効活用(大学が評価する研究への傾斜配分)等により、研究環境の整備と研究の活性化を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜配分割合:年30%以上 ・論文数(査読付き、学術書掲載分):国際教養学科及び文学部 年30件以上 環境科学科、食・健康学科及び人間環境学部:年50件以上 うち、国際誌への論文掲載数:(今後の実績を踏まえて年度計画で設定) ・学会発表等数(招待講演、シンポジスト招聘講演数):年40件以上 うち、国際的な講演数:(今後の実績を踏まえて年度計画で設定) 	<p>1-1【平成24年度計画】</p> <p>【予算の有効活用等による研究の充実・活性化】</p> <p>大学の特色ある教育や地域社会及びグローバル化社会の発展に寄与する研究を推進すべく、学内予算の有効活用(大学が評価する研究への傾斜配分)等により、研究環境の整備と研究の活性化を図る。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・傾斜配分割合:年30%以上 ・論文数(査読付き、学術書掲載分) 国際教養学科及び文学部:年30件以上 環境科学科、食・健康学科及び人間環境学部:年50件以上 うち、国際誌への論文掲載数:(平成23年度実績と同等以上) ・学会発表等数(招待講演、シンポジスト招聘講演数):年40件以上 うち、国際的な講演数:(平成23年度実績と同等以上) 	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内研究奨励交付金については、平成23年度と同様に傾斜配分を30%とし、応募38件中、23件が採択された。 ○目標実績 ・傾斜配分割合:年30% ・論文数: 国際教養学科及び文学部:19件 環境科学科、食・健康学科及び人間環境学部:51件 うち、国際誌への論文掲載数:42(平成23年度24件) ・学会発表等数:57 うち、国際的な講演数:23(平成23年度18件) 	B	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文数のうち環境科学科、食・健康学科及び人間環境学部については、51件と目標を上回った。 ・国際誌への論文掲載数42件及び国際的な講演数23件については、いずれも平成23年度実績を上回った。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論文数について、国際教養学科及び文学部が19件と目標に届かなかった。 	No.20「論文等の実績」	22

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>2【産学官連携による研究交流の推進】</p> <p>研究交流会の開催やICT(情報コミュニケーション技術)を活用するなどして、産学官における交流ネットワークを形成するとともに、県及び国の研究機関、企業、行政機関等と連携・協力して、地域の課題解決につながる共同研究を推進する。また、社会のニーズを踏まえて大学の研究シーズを積極的に発信し、社会に還元する。</p> <p>・研究機関、企業、行政機関等との連携による共同研究の推進 ・産学官交流会、講演会、セミナー等の研究交流の推進 ・パンフレットやホームページ等を活用しての研究シーズの発信</p> <p>○達成目標 ・研究交流数:年5件以上 ・共同研究数:年15件以上</p>	1-1	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○研究機関、企業、行政機関等との連携による共同研究の推進 ・福岡ビジネス創造センターの運営委員会に参画、企業情報等を学内に提供した。 ・7月10日 「やずや食と健康研究所助成研究募集説明会」を開催した。(参加者28名) ○産学官交流会、講演会、セミナー等の研究交流の推進 ・5月10日 国際セミナー「インドの社会と女性問題」をインド国立環境工学研究所長を招聘し開催した。(参加者23名) ・7月19日 「環境白書を読む会～震災復興と安全安心で持続可能な社会づくりに向けて～」を環境省から講師を招聘し開催した。(参加者31名) ・10月11日～13日 エコテクノにブース出展し、パネル展示及びDVD上映した。 ・10月26日 産学官地域連携セミナー「食と健康を考える～食を通して明るい未来へ～」を福岡ビジネス創造センター共催で開催した。(参加者72名) ・11月3日 かすみ祭特別講演会「環境問題について学ぶ」をコンソーシアム・福岡共催で開催した。(参加者43名) ・11月30日 産学官技術交流会「生活の水の安全を守る女性たち」をコンソーシアム・福岡共催で開催した。(参加者167名) ○パンフレットやホームページ等を活用しての研究シーズの発信 ・教員データブックを関係機関へ配布するなど、本学の研究シーズを更に発信することにより共同研究数の増を図った。 ・大学ホームページにおいて、研究者情報を掲載した。</p> <p>○目標実績 研究交流数 : 6件 共同研究数 : 16件</p>	A	<p>【高く評価する点】 産学官技術交流会やセミナーを他機関と連携して開催し、主催者及び参加者の交流の場を設定することで、学内の研究情報の発信及び地域ニーズの把握に努めた結果、すべての項目において数値目標を上回って実施した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.21「産学官連携」	23

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>3【国内外の大学との学術交流の推進】</p> <p>本学の教育・研究のより一層の充実を図るため、国内外の大学との学術交流を積極的に推進する。</p> <p>・アジア地域大学コンソーシアム福岡 ・コンソーシアム福岡、APU学術教育交流、EUインスティテュート など</p> <p>○達成目標 ・国際共同研究数：今後の実績を踏まえて年度計画で設定</p>	<p>1-1【平成24年度計画】</p> <p>○国内大学との学術交流の推進 ・コンソーシアム福岡の事業に積極的に参画し、学術交流を進める。 ・東部地域大学連携協定に基づき、連携事業の検討を進める。 ・APUとの連携協定に基づき、今後の連携内容を検討する。</p> <p>○国外大学との学術交流の推進 ・平成23年11月にアジアの有力協定校との間で設立した「アジア地域大学コンソーシアム福岡」において、複数分野での共同研究の推進と教職員・学生の交流促進を図る。 ・平成23年4月に九州大学、西南大学と共に設置した、「EUIJ(EUインスティテュート・ジャパン)九州」において、EUに関する理解を深める活動を展開する。 ※EUIJ(EUインスティテュート・ジャパン)：欧州連合(EU)に関する教育・学術研究、情報収集・発信の拠点。</p> <p>○数値目標 ・国際共同研究数：3テーマ(国際教養、環境、食・健康から各1テーマ)</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○国内大学との学術交流の推進 ・平成23年に引き続き国公立大コンソーシアム・福岡単位互換事業を実施した。4大学合同ゼミナールに参加する等、学術交流を実施した。 9月24日 国公立大コンソーシアム・福岡公開講座「九州の再生可能エネルギーを考える～太陽光、風力、水力、地熱、バイオマスなどの地域資源を活かした取り組み～」を開催した(参加者165名)。 ・東部地域大学連携協定に基づき、学長懇話会、連携推進委員会、学生懇話会を開催し、それぞれ連携事業について協議した。 11月9日～12月7日 東部地域大学連携公開講座「東区を知ろう～歴史と文化～」を全4回開催した(参加者524名)。 ・APU(立命館アジア太平洋大学)との連携内容について、学内で検討を行った。</p> <p>○国外大学との学術交流の推進 ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」の枠組みのもと、国際教養、環境、食・健康の各分野において該当する学科の教員から代表者を定め、共同研究の具体的な進め方を協議し、研究に着手した。 国際教養分野では「持続可能な未来に果たすアジアの女性の役割」のメインテーマのもと各研究者が個別分野の研究にあたり、環境、食・健康の両分野では「アジアにおける環境問題」、「食の安全と危機における栄養管理」のメインテーマのもと各々に3つのトピックを定め研究にあたっている。 ・EU関係科目を一定以上履修したことを証するEUディプロマプログラム(EUDP)を新入生中心に紹介した結果、EUDP登録者は平成23年度の68名から104名に増加した。 EUIJ九州事業として各種シンポジウム、各種フォーラム、更に学生のためのEUを知るサマーコースを実施した。 ・「EUと市民意識の形成―過去と現在、内と外から展望する」と題する国際シンポジウムを本学大学会館において開催し、本格的な国際シンポジウムに参加する機会を本学教職員・在校生に提供した。</p> <p>○目標実績 ・国際共同研究数：3テーマ(国際教養、環境、食・健康から各1テーマ)</p>	A+	<p>【高く評価する点】</p> <p>・コンソーシアム・福岡においては、積極的に学術交流を進めた上、学術交流による研究成果を、公開講座等により地域へ還元した。 ・東部地域大学連携協定においては、連携事業の検討に留まらず、幹事校として協定校を牽引し、公開講座等の事業を実施した。 ・EUIJ九州構成各校のEUDP登録者数は、本学104名、九州大学34名、西南学院大学77名(いずれも学部レベル)の計215名となり、各校学生数を考慮した場合の登録率は本学が群を抜いており、本学学生のEUへの興味関心を著しく高めることができた。 ・海外ゲストを招いての大規模かつ本格的な国際シンポジウムの学内開催により、教職員・在校生等の学術交流に関する気運を醸成した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.22「大学間連携」 No.24「国際交流協定」	24

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	4【外部研究資金の獲得推進】 研究環境の整備と研究の活性化に向け、科学研究費等研究助成に関する公募情報の周知や応募の促進を図るなどして、外部研究資金の獲得を積極的に推進する。 ○達成目標 ・外部研究資金(科学研究費)申請件数、新規獲得率:申請件数 年55件以上(継続分含む) 新規獲得率 年2割以上	1-1【平成24年度計画】 ○外部研究資金獲得の積極的推進 ・科学研究費制度説明会を開催する。 ・科学研究費獲得のための講演会を新たに開催する。 ○数値目標 ・外部研究資金(科学研究費)申請件数、新規獲得率: 申請件数 年55件以上(継続分含む) 新規獲得率 年2割以上	1	【平成24年度の実施状況】 ○外部研究資金獲得の積極的推進 ・9月21日 科研費獲得セミナー「科研費獲得の方法とコツ」を開催した。(参加者36名) ・9月26日、27日 科研費説明会を開催した。(参加者39名) ・3月5日 知的財産権セミナーを開催した。(参加者33名) ○目標実績 外部研究資金(科学研究費)申請件数、新規獲得率: 申請件数 54件(継続分含む) 新規獲得率 16.2%	B	【高く評価する点】 科研費新規獲得率の向上を目指し、例年開催している科研費説明会に加え、科研費獲得のノウハウを持つ外部講師を招聘した科研費獲得セミナー「科研費獲得の方法とコツ」を初めて開催した。 【実施(達成)できなかった点】 外部研究資金(科学研究費)申請件数、新規獲得率ともに数値目標に及ばなかった。	No.19「研究」	25
		ウェイト総計	24年度 4		項目数計			24年度 4

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

該当なし

「研究」に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

<p>中期目標 3. 社会貢献</p>	<p>「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」</p> <p>大学の特色を活かして、女性のキャリアアップや再就職に資する教育プログラム等の実施や、地域との交流・連携を通じた地域振興に貢献する取組を積極的に実施する。また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。</p>
-------------------------	--

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 社会貢献活動の拡充	<p>1 【女性の生涯学習の拠点化】</p> <p>地域連携センターを拠点に、大学の特色を活かして社会貢献活動を積極的に推進するとともに、情報発信機能の強化を図る。</p> <p>女性のキャリア形成や再就職に役立つ魅力ある実践的な教育プログラムを提供する。</p> <p>○グローバル化に対応したプログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国内外の女性リーダーを招聘しての講演会やシンポジウム ・外国語コミュニケーション能力養成講座 など <p>○就労期の教育支援(女性のキャリアアップ形成のための実践的教育プログラム)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キャリア支援講座(ビジネス関連、PC関連、外国語等) ・大学の正規授業の開放(科目等履修制度の活用)など <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化対応プログラム数、アンケート良好評価:年3件以上、良好評価80%以上 ・就労期対応プログラム数、アンケート良好評価:年3件以上、良好評価80%以上 	1-1	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○グローバル化に対応したプログラムの実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企画段階から同窓会と連携し、女性リーダーを招聘した講演会を実施する。 ・公開講座「グローバル化時代の国際安全保障～台頭するインド・中国～」(84名参加) ・公開講座「中国人講師による現代中国講座」(79名参加) ・特別講演会「アジアへのまなざし」(270名参加/アクロス福岡国際会議場にて開催) <p>「アジアへのまなざし」は、講師選定を始めとする企画の段階から同窓会と連携し、女性リーダーとして、芥川賞作家高樹のぶ子氏を講師に招いて開催した。</p> <p>○就労期の教育支援(女性のキャリアアップ形成のための実践的教育プログラム)の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座「必勝TOEIC！みるみる英語力アップ講座」(176名参加)を実施した。 ・大学の正規授業開放について、「福岡女子大学開放授業パンフレット」を作成し、地域公民館、市民センター、公共図書館等を中心に配布した。また、地域連携センターホームページにも情報を掲載した。 ・女性のキャリアアップに役立つ実践的教育プログラムを学内で検討し、県の重点事業として企画案を作成した。 <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化対応プログラム数：年3件 アンケート良好評価：良好評価86.2% ・就労期対応プログラム数：年1件 アンケート良好評価：良好評価79.5% 	A	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グローバル化に対応するプログラムとして、3件の公開講座及び特別講演会を実施した。特に、初めて同窓会と連携して行った特別講演会は、定員を上回る参加を得て盛況であった(アクロス福岡国際会議場2階席を開放して対応)。 ・グローバル化対応プログラムも就労期対応プログラムもアンケートの良好評価が目標を上回った。 ・開放授業パンフレットをわかりやすい内容に刷新し、広く周知した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.23「公開講座」	26

福岡女子大学(社会貢献)

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	<p>【地域との交流・連携の推進】</p> <p>地域に貢献できる大学づくりを目指し、国内他大学や地域、自治体、また、同窓会等との交流・連携を積極的に推進するとともに、地域の課題解決につながるプログラムを開発・実施する。また、学生の社会性や主体性を育む地域交流活動を積極的に推進・支援する。</p> <p>・他大学等との連携による地域振興プログラムの実施 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ・同窓会との交流・連携の強化 ・学生ボランティア活動の支援 ・外国人学生と地域との国際交流の推進 ・大学のシーズを活用した各種活動(技術交流・アドバイス等)の推進</p> <p>○達成目標 ・県立三大学による共同プログラム数:年1企画以上 ・地域交流件数:(今後の実績を踏まえて年度計画で設定)</p>	1-1	2	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○他大学等との連携による地域振興プログラムの実施 ・4月、6月「東部地域大学学生懇話会」を開催し、学生が意見交換、地域イベント情報の提供を行った。10月末 東警察署と「東部地域大学学生懇話会」学生とが協議をし、3大学がJR最寄3駅でキャンペーンを行うことで合意した。 ・平成24年1月以降、香住丘校区及び九州産業大学と連携し、香住丘校区防犯パトロールに参加している。(月1回継続中) ・11月9日～12月7日(全4回講座)東部地域大学連携公開講座「東区を知ろう～歴史と文化～」を開催した。一般の申込者数は219名、受講者実数は定員200名に対して、197名であった。第4回のガイドツアーは定員先着40名としたが、多数のキャンセル待ちが出る等、好評であった。(参加者延べ524名)(福岡市東区委託事業) ・11月13日～12月7日 東部地域大学が合同で「区役所まるっと美術館」を開催し、本学からは書道同好会が作品を出展した。(福岡市東区委託事業) ○県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施 ・10月9日～1月18日 県立三大学連携県民公開講座「食べる・噛む・生きる～食と生活を見直して元気で長生き～」を県と連携し県内4会場(福岡、筑豊、北九州、筑後)で開催した。(参加者延べ564名) ○同窓会との交流・連携の強化 ・10月24日 秋枝蕭子本学名誉教授特別講演会「私の歩いて来た道～戦前・戦後の女性の生き方に関りながら～」を開催した。企画から実施まで同窓会と連携・共催した。(※通し番号26でカウントする。) ・1月12日 芥川賞作家高樹のぶ子氏特別講演会「アジアへのまなざし」を開催した。企画から実施まで同窓会と連携・共催した。(※通し番号26でカウントする。) ○学生ボランティア活動の支援 地域のボランティア情報を学生へ提供し、多数の参加を得た。 ・4月以降 「香住っ子ひろば」(土曜に公民館で児童預かり) ・2月以降 城香中学校の生徒への学習支援ボランティア 他3件 ○外国人学生と地域との国際交流の推進 ・7月28日 「香住丘夏まつり」に、公民館の協力を得て留学生が浴衣姿で参加した。 ・1月13日 「そば打ち体験教室」を香住丘公民館と共催し、留学生が地域の方と交流した。 ・1月23日 「留学生との交流会」を地域の方を招待し開催した。他4件 ○大学のシーズを活用した各種活動(技術交流・アドバイス等)の推進 ・教員データブック(学内人材情報を網羅した冊子)を関係機関、来学者、出前講義先の高校に配布した。</p> <p>○目標実績 ・地域交流件数:36件(平成23年度13件)</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>・地域交流件数は36件であり、平成23年度実績の13件から大幅に増加した。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		27

福岡女子大学(社会貢献)

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3	<p>【大学の知的資源の地域への還元と情報発信機能の拡充】</p> <p>地域貢献に関する大学の知的資源を一元的に把握・管理し、小中高との教育連携や、魅力ある公開講座を実施するとともに、出張講義や研究依頼等の地域のニーズに積極的に対応できるシステムを構築して大学の地域連携に関する情報を積極的に発信する。</p> <p>○青少年期の教育支援 ・小、中、高との連携の推進(出前講義、SSH、SPP、イングリッシュキャンプ等) ○壮年・高齢期の学習支援 ・教養・文化講座等の多様な公開講座 ・大学の正規授業の開放(科目等履修制度の活用) ○大学のシーズ(教員や学生ボランティア情報など)と地域ニーズのマッチングシステムの整備 ○地域利用者の利便性を踏まえた利用申込みシステムの整備 ○広報活動の充実・強化</p> <p>○達成目標 ・小・中・高連携数、アンケート良好評価(出前講義、体験授業):連携数 年30件以上、良好評価90%以上 ・壮年・高齢期対応プログラム数、アンケート良好評価:年5件以上、良好評価80%以上 ・地域連携センター利用件数:(今後の実績を踏まえて年度計画で設定)</p>	1-1	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○青少年期の教育支援 ・7月 県内の高校に出張講義一覧表(教員名、講義内容等)、申込書様式を送付した。申込は随時受け付け、講師を派遣した。(出張講義実績:46件(SSH含む)) ・8月11日～13日「イングリッシュキャンプ」を2泊3日で開催した。九州・山口の女子高校生36名が参加した。全英語の授業、留学生との料理交流会等を実施した。 ・8月11日「世界一行きたい科学広場in宗像2012」に出展した。(財)九州先端科学技術研究所と連携) ・8月23日「おもしろ理科実験教室」を開催し、香住丘小学校6年生13名が参加した。(福岡市東区委託事業) ・9月11日 古賀東中学校から上級学校訪を受け入れた。(18名) ・9月12日 志免東中学校で出前講義を実施した。(120名) ・9月12日～14日 香椎第二中学校の職場体験学習を受け入れた。(5名) ・1月29日 香椎第三中学校の取材を受け入れた。(2名) ○壮年・高齢期の学習支援 次の6つの公開講座・特別講演会を実施した。 ・公開講座「達者で長生き～運動・スポーツと健康づくり～」(41名参加) ・公開講座「人と人とのつながり～九州・福岡のことばと歴史～」(190名参加) ・公開講座「武者の世を切り開いた平清盛～史学・文学からの考察～」(179名参加) ・なでしこ塾「大人のための食講座～賢く選んで楽しく食べる～」(98名参加/JR博多シティ会議室にて開催) ・特別講演会「私の歩いて来た道～戦前・戦後の女性の生き方に関りながら～」(231名参加) ・かすみ祭特別講演会「環境問題について学ぶ」 ・大学の正規授業開放について、「福岡女子大学開放授業パンフレット」を作成し、地域公民館、市民センター、公共図書館等を中心に配布した。また、地域連携センターHPIにも情報を掲載した。 ○大学のシーズと地域ニーズのマッチングシステムの整備 ○地域利用者の利便性を踏まえた利用申込みシステムの整備 ・地域公民館に大学窓口として地域連携センターを明示したことにより、地域イベントへの参加依頼等の地域ニーズが地域連携センターに集約され、地域連携センターが地域と学生・教員とのマッチングを実施している。 ・5月13日「香住丘校区ウォーキング大会」に留学生が参加した。 ・8月3日～4日「香住丘校区サマーキャンプ」にボランティアとして学生が手伝いで参加した。 ・9月8日「香住丘音楽会」に放送サークルが司会を担当し、マンドリンクラブが演奏で出演した。 ・10月13日「香椎灯明まつり」で学生及び留学生がボランティアとして当日の準備の手伝いをした。 ・11月2日 福岡市立老人福祉センター東香園で音楽サークルが演奏会を行った。 ・1月以降「放課後等デイサービス CoCo.com(ここどっとこむ)」(小学校・中学校に通う障がいのある子どもたちと一緒に遊ぶボランティア)に学生が参加した。他6件 ○広報活動の充実・強化 ・地域連携センター主催事業を中心に、大学のイベントについて、地域公民館、市民センター等各種センター、図書館、行政、大学、マスコミ等にチラシ、ポスター等を配布し随時周知した。特に大学の立地する香住丘校区及び香椎校区については重点的に周知した。(香住丘校区:公開講座のチラシを全戸配布、香住丘校区・香椎校区:かすみ祭(大学祭)のチラシを回覧版で回覧) ○目標実績 ・小・中・高連携数:82件(小学校1件、中学校4件、高校出前講義(体験授業含む)76件、高校生イングリッシュキャンプ1件) ・アンケート良好評価(出前講義、体験授業):97.2% ・壮年・高齢期対応プログラム数:年6件 アンケート良好評価:84.1% ・地域連携センター利用件数:36件(平成23年度13件)</p>	A+	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小・中・高連携数目標30件以上に対し、実績82件、アンケート良好評価目標90%以上に対し、97.2%であり、数値目標を大きく上回っている。 ・初めて、大学外の駅に直結し利便性の高い会場(JR博多シティ会議室)で講座を開催した。この講座は特に好評であり、福岡女子大学のアピールにもつながった。 ・地域公民館に大学窓口として地域連携センターを明示したことにより、地域連携センター利用件数が平成23年度実績の13件から36件に大幅に増加した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.5「出前講座」 No.23「公開講座」	28

福岡女子大学(社会貢献)

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2 国際化の推進	1 【「アジア地域大学コンソーシアム福岡」による交流活動の推進】 「グローバル化に対応して国際的に活躍できる人材」を育成するため、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させ、大学の国際化を推進する。 ・国際共同研究の実施 ・学生交流や教員交流等の各種事業を展開 ・海外の高等教育機関に所属する若手女性教員の人材育成プログラムの企画・実施 ・本学若手教員を対象とした海外トレーニングプログラムの企画・実施 ○達成目標 ・受入・派遣教員数：年3名以上	1-1 【平成24年度計画】 ○国際共同研究の実施 ・本学国際文理学部の各学科に対応する次のテーマのもと、アジアの協定校と国際共同研究を実施する。 ・「持続可能な未来に果たすアジアの女性の役割」(国際教養学科) ・「アジアにおける環境問題」(環境科学科) ・「食の安全と危機における栄養管理」(食・健康学科) ○学生交流や教員交流等の各種事業を展開 ・共同研究参加校教員招聘 共同研究参加校の教員等を本学での中間報告及び研究打合せ等に招聘する。 ・本学教職員等派遣(共同研究進捗確認・現地打合せ) 本学教職員・院生等を、参加校等に派遣する(主な訪問先：共同研究参加校、現地中央官庁、民間企業・研究所) ○本学若手教員を対象とした海外トレーニングプログラムの企画・実施 ・九州大学が実施する「英語による教授能力」向上のための研修に参加する機会を教員に提供する。 ○数値目標 ・受入・派遣教員数：年合計3名以上(「英語による教授能力」向上のための研修参加者3名)	1	【平成24年度の実施状況】 ○国際共同研究の実施 ・国際教養、環境、食・健康の各分野において該当する学科の教員から代表者を定めたうえで共同研究の具体的な進め方を協議し、研究に着手した。 ・第1セッション(国際教養学科所掌)においては、テーマを10のトピックに分割し女子大から5名、協定校から5名、計10名の研究者が研究を実施した。 第2セッション(環境科学科所掌)は、3つのトピックを定め研究を進めている。 第3セッション(食・健康学科所掌)は、3つのトピックを定め研究を進めている。 ○学生交流や教員交流等の各種事業を展開 ・共同研究参加校の教員招聘実績 ①8月下旬、3校3名の共同研究者を招へいし、本学で技術交流会を開催した。(第2セッション) ②8月中旬、梨花女子大学(韓国)との共同サマープログラム(EAT40)引率も兼ねて、同校教員2名が来学した。(第3セッション) ・本学教職員等派遣(共同研究進捗確認・現地打合せ) ①EAT40の事前打合せ、引率等も兼ねて、5月上旬に2名、8月中旬に6名が梨花女子大学等を訪問した。(第3セッション) ②研究内容打合せ等のため5月下旬に3名、10月上旬に2名がタイ(タマサート大学等)を訪問した。(第3セッション) ③8月下旬、研究内容打合せ等のため教員1名がペラデニア大学(スリランカ)等を訪問した。(第1セッション) ○本学若手教員を対象とした海外トレーニングプログラムの企画・実施 ・9/24～26にかけて九州大学で実施された「『英語による教授能力』向上のためのワークショップ」に本学教員2名が参加。 ・3/10～3/23にかけてフィリピンで実施された現地研修に、本学教員1名が参加。 ○目標実績 ・「英語による教授能力」向上のための研修参加者数：3名	A	【高く評価する点】 ・「アジア地域大学コンソーシアム福岡」の枠組みを使った共同研究を計画通り実施したことに加え、同コンソーシアム設置をきっかけに24年度に試行実施した梨花女子大学との共同サマープログラムにより、同校との密な学生交流・教員交流を実現させることができた。 【実施(達成)できなかった点】	No.24「国際交流協定」	29

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																			
項目	実施事項				評価	理由																					
2	<p>【海外大学との交流促進及び留学生の受入拡大】</p> <p>海外有力大学との交流を充実・促進するとともに、短期留学受入プログラム(交換留学)の新規開発等により優秀な留学生を確保する。</p> <p>また、私費外国人留学生の受け入れ国の多様化に努め、豊かな異文化体験が可能な環境作りを行う。</p> <p>・提携大学との継続的交流と質的深化 ・短期留学生受入プログラムの実施・新規開発 ・様々な国からの私費外国人留学生の確保(入試方法、広報活動の工夫等) ・本学日本人学生(JD-Mates)による短期留学生のサポートの充実 ・国際シンポジウム・セミナー開催や国際学会参加(教員・学生)への支援</p> <p>○達成目標 ・短期受入留学生数:年20名 ・JD-Mates登録者:200名以上(最終到達目標)</p>	<p>1-1 【平成24年度計画】</p> <p>○提携大学との継続的交流と質的深化 梨花女子大学と共催予定の日韓を跨って実施する短期プログラムEAT40(East Asian TEAM Project-Food and Culture 40)を試行するとともに、協定校とのその他の新規共催事業も検討する。</p> <p>○短期留学生受入プログラムの実施・新規開発 ・女子大記念プログラム(WJC:The World of Japanese Contemporary Program)参加校の多様化を図るとともに、本学からの奨学金(8万円/月)の支給を受けないプログラム参加者の受入れを検討する。</p> <p>○様々な国からの私費外国人留学生の確保(入試方法、広報活動の工夫等) ・渡日前入学試験を実施する。実施する国としては、昨年「志願者」実績のある韓国を検討する。その他の試験候補地は、現状を分析した上で検討する。</p> <p>・留学生向け進学相談会に日本国内・海外で参加する。また「日本語学校」への渉外を通じて、留学生への広報活動を強化する。</p> <p>○本学日本人学生(JD-Mates)による短期留学生のサポートの充実 ・短期留学生等には、後述JD-Mates(Jyoshiadai-Mates)から選抜したJD-Mates WJC(WJC短期留学生の支援を行う)、JD-MatesEXS(一般交換留学生の支援を行う)を1対1で配置する。</p> <p>○学生や教員等への支援・充実 ・22年度からチューター制度をJD-Mateとして登録制に変更し、従来よりも積極的に本学の国際交流に関わる機会を増やす体制を整備した。24年度は、23年度に引き続き入学時に登録制度を説明し、登録者の一層の増加を図る。</p> <p>・九州大学が実施する「英語による教授能力」向上のための研修に参加する機会を教員に提供する。</p> <p>○数値目標 ・短期受入留学生数:年50名(交換留学(一般)3名、WJC22名、EAT40梨花女子側参加者数25名) ・私費外国人受入留学生の受け入れ国 2カ国・地域以上 ・JD-Mates登録者:200名</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○提携大学との継続的交流と質的深化 ・8月に試行実施したEAT40に梨花女子大学から21名が参加した。</p> <p>○短期留学生受入プログラムの実施・新規開発 ・女子大記念プログラム(WJC)は、平成24年度から新たにコペンハーゲン大学(デンマーク)が参加し、9カ国10大学41名(平成23年度から継続12、平成24年度新規29)の参加を得て運営した。なお、本学からの奨学金(8万円/月)の支給を受けないプログラム参加者については、受け入れる留学生数が奨学金の支給人数枠内だったため、該当者はなかった。</p> <p>・学部への交換留学生受入れが実現し、初年度の平成24年度は5名を受け入れた。</p> <p>○様々な国からの私費外国人留学生の確保(入試方法、広報活動の工夫等) ・渡日前入学を実施する国については、「日本留学試験」の海外での受験状況や福岡との関係を踏まえ、韓国(ソウル)とベトナム(ハノイ)で実施することに決定し、志願者があった韓国(ソウル)にて試験を実施した。</p> <p>・国内での留学生向け進学相談会の「留学フェア」については、7月に東京・大阪・福岡で行われたイベントに参加した。併せて周辺の日本語学校(27校)への渉外活動を実施した。特に福岡地区については、複数回の渉外活動を通じて、信頼関係の構築に努めた。</p> <p>また、「留学生に対する募集広報活動」を積極的に推進するため、日本語学校・他大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を九州大学を会場に実施し、210名の留学生が参加した。</p> <p>・海外での留学フェアに関しては、入試の実施国である2ヶ国(韓国・ベトナム)を含め、5ヶ国・地域(ベトナム・台湾・韓国・タイ・インドネシア)10会場に参加した。</p> <p>○本学日本人学生(JD-Mates)による短期留学生のサポートの充実 ・平成23年度からの継続登録者を含む、H24年JD-Mates総登録者数は、本学在校生の1/4弱にあたる205名となった。登録者のうち32名をJD-Mates WJC又はJD-MatesEXSとして短期留学生に1対1で配置した。</p> <p>○学生や教員等への支援・充実 ・入学時に登録制度を説明して登録者の一層の増加を図ったところ、平成24年度JD-Mates総登録者数は、205名となった(平成23年度からの継続登録者を含む)。</p> <p>・9/24~26にかけて九州大学で実施された「『英語による教授能力』向上のためのワークショップ」に本学教員2名が参加した。</p> <p>・3/10~3/23にかけてフィリピンで実施された現地研修に、本学教員1名が参加した。</p> <p>○目標実績 ・短期受入留学生数</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標人数A</th> <th>実績人数B</th> <th>B÷A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交換留学(一般)</td> <td>3名</td> <td>5名</td> <td>1.67</td> </tr> <tr> <td>WJC</td> <td>22名</td> <td>41名</td> <td>1.86</td> </tr> <tr> <td>EAT40</td> <td>25名</td> <td>21名</td> <td>0.84</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>50名</td> <td>67名</td> <td>1.34</td> </tr> </tbody> </table> <p>・私費外国人受入留学生の受け入れ国 : 3ヶ国(中国・韓国・ベトナム) ・JD-Mates登録者 : 205名</p>		目標人数A	実績人数B	B÷A	交換留学(一般)	3名	5名	1.67	WJC	22名	41名	1.86	EAT40	25名	21名	0.84	小計	50名	67名	1.34	<p>A+</p> <p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・短期受入留学生数数値目標50名に対し、67名の交換留学生を受け入れることができた。特に、WJCの学生数に関しては、学内における国際的な修学環境の充実に大きく影響するところであり、目標を大きく上回る41名を受け入れることができた。 ・新規プログラムとしてEAT40を試行実施した。 ・「留学生に対する募集広報活動」を積極的に推進するため、日本語学校・他大学・JASSOの協力を得て、九州大学を会場として、本学の企画・運営による「留学生のための大学進学フェア福岡」を実施し、210名の留学生が参加した。 ・私費外国人受入留学生の受け入れ国が、2カ国から3ヶ国(中国・韓国・ベトナム)に増加した。 ・平成22年度に従来のチューター制度を登録制のJD-Mateに変更して以来、3年足らずの間に最終到達目標である200名を超える登録者数を実現した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.25学生、教員の国際交流	30
	目標人数A	実績人数B	B÷A																								
交換留学(一般)	3名	5名	1.67																								
WJC	22名	41名	1.86																								
EAT40	25名	21名	0.84																								
小計	50名	67名	1.34																								

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
3	<p>【派遣留学等の推進】</p> <p>世界の国々・地域との交流・連携を担える人材を育成するため、派遣留学等に対する支援の充実・強化を図るとともに、海外留学や海外での体験学習を積極的に推進する。</p> <p>・短期海外留学プログラム(交換留学)の実施・新規開発 ・海外語学研修プログラムの実施・新規開発 ・海外体験学習プログラム(短期・長期)の実施・新規開発 ・本学での海外留学フェアやワークキャンプ(NGO等が実施するワークキャンプやNGOでのキャリアに関する説明会)の開催 ・派遣留学生等に対する支援の充実・強化(TOEFL受験の支援、留学に関する相談など) ・危機管理体制と危機管理意識の徹底</p> <p>○達成目標 ・交換留学派遣学生数:年10名以上 ・語学研修派遣学生数:年80名以上 ・体験学習派遣学生数:年30名以上 ・留学フェア等開催数:年3回以上</p>	1-1	<p>【平成24年度計画】</p> <p>○短期海外学習派遣プログラム(交換留学・語学研修)の実施・新規開発 ・海外語学研修の科目を設定し、海外協定校を中心に本学学生の研修プログラムを実施する。 また、梨花女子大学校との共催により日韓を跨って実施する短期プログラムEAT40(East Asian TEAM Project-Food and Culture 40)を試行するとともに、協定校との今後の共催プログラムについて検討する。 ・国際化推進基金等を原資とする交換留学支援制度及び語学研修・体験学習支援制度の周知により、提携校等への渡航を推進する。 (交換留学支援制度) ・JASSOの補助金受給者 ……奨学金として月額8万円 ・上記補助金を受給しない者……渡航費として欧米15万円、アジア8万円(目安) (語学研修・体験学習支援制度) ・参加費として5万円</p> <p>○海外体験学習プログラム(長期・短期)の実施・新規開発 ・「フィールドスタディ」(豪州エコビレッジにおける環境問題体験学習、スリランカにおける国際開発協力)を実施する。</p> <p>○本学での海外留学フェアやワークキャンプ(NGO等が実施するワークキャンプやNGOでのキャリアに関する説明会)の開催 ・新入生オリエンテーションにおいて交換留学・語学研修ほか本学が提供する国際関係事業の全体像を説明する。 ・各学期の開始時に留学フェアを開催し、交換留学や語学研修への関心を高めるとともに、参加までの手続き等を詳細に説明し、実際の派遣に繋げる。</p> <p>○派遣留学生等に対する支援の充実・強化(TOEFL受験の支援、留学に関する相談など) ・随時留学相談を実施する。(個別相談、必要に応じての渡航前勉強会の実施等) ・3、4年生を対象としたTOEIC受験料補助を行う。 ・AEP終了後の更なる英語力の強化を図るため、TOEFL受験料の補助を行う。 ・交換留学準備のためのTOEFL受験機会を提供する。</p>	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○短期海外学習派遣プログラム(交換留学・語学研修)の実施・新規開発 ・海外語学研修プログラムを実施し、夏季30名(中国11、タイ7、米12)、春季71名(ニュージーランド17、米11、英28、独6、ベルギー9)の合計101名が参加した。 ・平成24年度に試行実施した梨花女子大学校(韓国)との共同サマープログラム(EAT40)には合計31名(梨花女子大学校21、本学10)が参加し、韓国でのプログラム(8/13～8/18)、福岡でのプログラム(8/20～8/24)、いずれも成功裏に終えることができた。 ・交換留学については、秋(8～9月)出発8名(デンマーク2、アイスランド1、スウェーデン2、ベルギー3)、春(1～2月)出発9名(インドネシア1、韓国3、タイ1、中国2、ベルギー2)の合計17名が留学を開始した。 ○海外体験学習プログラム(長期・短期)の実施・新規開発 ・「フィールドスタディ」(スリランカにおける国際開発協力)は3名の参加を得て実施したが、豪州エコビレッジにおける環境問題体験学習は履修登録者がなく、実施できなかった。 ・「国際インターンシップ」(スリランカNGO就業体験)に1名が参加し、企画・調整等を自ら行い、異文化の中で主体的・自主的に行動する力を身につけ、発揮した。 ○本学での海外留学フェアやワークキャンプ(NGO等が実施するワークキャンプやNGOでのキャリアに関する説明会)の開催 ・日々の個別相談のほか、広く在校生を対象とする説明会等を次のとおり実施した。 (留学フェア等) 4/6:新入生オリエンテーションでの国際関係事業説明 4/20:第1回留学説明会・個別相談会 6/8:第2回留学説明会・個別相談会 10/26:第3回留学説明会・個別相談会 (語学研修) 4/22:海外語学研修(春季)参加報告会 6/27:夏期海外語学研修事前指導 11/3:海外語学研修(夏季)参加報告会 1/17:春季海外語学研修事前指導 ○派遣留学生等に対する支援の充実・強化(TOEFL受験の支援、留学に関する相談など) ・TOEIC受験をした在校生187人に対し1,000円/人の補助を行った。 ・TOEFLを受験した1、2年生456人に対しても、820円/人の補助を行った。 ・TOEFL受験の機会を提供するため、次のとおり説明会及び試験を行った。 5/8:TOEFL説明会 6/16:国際化推進センター主催TOEFL ITP 12/8:国際化推進センター主催TOEFL ITP ○危機管理体制と危機管理意識の徹底 ・海外体験学習について、参加学生に対しては渡航前の授業において、危険予防(回避)の意識を徹底するとともに、大学としては教育学習支援センターを中心として危機ガイドラインに沿って、渡航前の安全確認及び渡航中の危機管理体制を敷き、危機管理を実施した。 ・海外語学研修について、参加者全員に課した2回の事前指導により海外渡航前の予防措置を徹底するとともに、渡航中は危機管理ガイドラインに基づいた支援体制を敷いた。 また、包括保険に平成23年度に引き続き加入した。教職員・学生の海外渡航予定者には制度の案内を行い、保険付保事務もセンターで代行することで保険制度の周知と付保率の向上を図った。</p>	A	<p>【高く評価する点】 ・語学研修修了者84名による自主研究の発表会を学外にも公開のうえ実施し、学内の国際化気運の醸成に資するとともに本学の国際化の状況を学外にアピールすることができた。 ・交換留学や海外語学研修については、国際化推進センター職員全員が常時在校生からの相談に対応できる体制を担保したことで、交換留学渡航者17名(当初目標値10名)、語学研修参加者101名(当初目標値85名)と所期の目標を上回る成果を上げた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.25「学生、教員の国際交流」	31

福岡女子大学(社会貢献)

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																							
項目	実施事項				評価	理由																									
		<p>○危機管理体制と危機管理意識の徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外体験学習については、23年度に遵守事項や危機管理体制などを定めた危機管理ガイドラインに基づいて実施する。 ・学生・教職員等大学関係者全員を被保険者とする包括保険に継続加入するとともに、保険制度の周知を図る。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣:140名(交換留学10名、海外体験学習30名、語学・文化研修85名、EAT40本学参加者15名) ・留学フェア等開催数 年3回 	<p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海外派遣 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>目標人数A</th> <th>実績人数B</th> <th>B÷A</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交換留学</td> <td>10名</td> <td>17名</td> <td>1.70</td> </tr> <tr> <td>体験学習</td> <td>30名</td> <td>4名</td> <td>0.13</td> </tr> <tr> <td>語学研修</td> <td>85名</td> <td>101名</td> <td>1.19</td> </tr> <tr> <td>EAT40</td> <td>15名</td> <td>10名</td> <td>0.67</td> </tr> <tr> <td>小計</td> <td>140名</td> <td>132名</td> <td>0.94</td> </tr> </tbody> </table> ・留学フェア等開催数 : 4回 		目標人数A	実績人数B	B÷A	交換留学	10名	17名	1.70	体験学習	30名	4名	0.13	語学研修	85名	101名	1.19	EAT40	15名	10名	0.67	小計	140名	132名	0.94				
	目標人数A	実績人数B	B÷A																												
交換留学	10名	17名	1.70																												
体験学習	30名	4名	0.13																												
語学研修	85名	101名	1.19																												
EAT40	15名	10名	0.67																												
小計	140名	132名	0.94																												
		ウエイト総計	24年度 7			項目数計	24年度 6																								

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

「3-1-2-1」
本項目は、中期目標で指示された重点事項である、地域との交流・連携の積極的な推進と、女性の生涯学習拠点としての機能の向上の内、平成24年度に行う特に重要な取り組みとして重点施策に位置づける。

「社会貢献」に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 4. 業務運営	「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」 大学は、理事長のリーダーシップのもと、自律性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。
-----------------	--

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 大学運営の改善 大学の理念の実現に向け、時代の変化や社会のニーズに即応して学生に対する最良の教育を施すべく、教職員が一体となって大学運営の改善を推進する体制を構築する。	1 【組織運営の改善と事務局機能の充実・強化】 理事長のリーダーシップに基づく、法人・大学の機動的かつ戦略的な運営・経営を実現するため、的確かつ迅速な意思決定の体制を構築するとともに、全学的な目標に沿った学内資源の適正な配分を行う。 また、多様化する大学運営の課題に対応すべく、事務局機能を充実・強化するため、事務局職員の計画的なプロパー化を推進するとともに、職員の意識改革や業務能力の向上を図るなど、専門性を備えた人材の確保・育成を推進する。 ・法人・大学の迅速な意思決定の体制構築 ・現場を踏まえた運営と学内資源の適正な配分 ・SDによる職員の意識改革による業務能力の向上、業務体制・内容の検証・改善 ・事務局職員の計画的なプロパー化の推進 ・より機能的な事務体制の構築に向けた、県立三大学における事務処理の共通化の検討・実施	1-1 【平成24年度計画】 ○法人・大学の迅速な意思決定の体制構築 ・定例開催の執行部会議において、法人・大学運営に係る課題点等(短期・中長期の視点)の把握・抽出を適時行うとともに、各業務担当役員を中心として事業を改善・促進していく。 ○現場を踏まえた運営と学内資源の適正な配分 ・定期的に全学的な学生アンケートを実施するなどして、現場の実態を把握し、各部署における業務運営・体制の改善につなげる。 ○SDによる職員の意識改革による業務能力の向上、業務体制・内容の検証・改善 ・年間のSD研修の計画立案と全学SD研修の実施、及び対象者限定のSD研修(職員英語力向上研修)の企画・実施を行う。 ○事務局職員の計画的なプロパー化の推進 ・昨年に引き続き、プロパー職員採用試験を実施し、専門性を備えた人材を確保する。 ○三大学事務処理の共通化の検討 ・より合理的、効率的な事務の実現に向け、三大学連絡会議を活用するなどして、各種事務業務について共通化の可能性を検討する。 ○数値目標 ・全学SD研修の実施(夏季に1回以上)	1	【平成24年度の実施状況】 ○法人・大学の迅速な意思決定の体制構築 ・年度始めの執行部会議において法人・大学運営に係る課題点を抽出・整理し、その後7月以降の執行部会議において各担当役員等から課題毎に進捗状況の報告を受け、それに対する理事長からの指示を踏まえ、業務を推進した。 ○現場を踏まえた運営と学内資源の適正な配分 ・学生アンケートを8月に旧学部生(3、4年生)に対して、また、10月に新学部生(1、2年生)に対して実施し、その結果を分析の上関係部署において対応策の検討を行い、業務改善につなげた。 ○SDによる職員の意識改革による業務能力の向上、業務体制・内容の検証・改善 ・年間のSD計画を立案し、計画に伴って実施した。具体的には、「全学SD研修」の夏季2回(2時間×2回)の実施や「職員の英語力向上研修」を上級コース(業務能力向上研修:外部委託)と中級・初級コース(内部講師による研修)の3コースに分けて実施した。また、文部科学省職員(国際企画専門官)を招いての講演会の実施など計画を上回って実施した。 ○事務局職員の計画的なプロパー化の推進 ・全戸配布の「福岡県だより」に掲載するなど効果的な広報を実施し、昨年以上の女子大受験者を確保した(平成23年度:390人、平成24年度:416人)。 ・採用試験を実施し、優秀な職員を採用した。 ○三大学事務処理の共通化の検討 ・三大学事務統合等検討会議を行い、事務のうち統合できる項目の洗い出しを行った。 ○目標実績 ・全学SD研修の実施 ： 夏季に3回実施(研修2回、講演会1回) 英語研修(3コース)	B	【高く評価する点】 「職員の英語力向上研修」を上級コース(業務能力向上研修:外部委託)と中級・初級コース(内部講師による研修)の3コースに分けて実施した。 【実施(達成)できなかった点】		32

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	2【人事評価の実施】 教育研究をはじめとする大学運営の活性化と継続的な改善を推進するため、教員については、適時個人業績評価の項目や内容について検証・見直しを行い、その結果を処遇に反映させるとともに、事務局職員についても評価制度の内容を検討し、導入する。 ・教員の個人業績評価制度の検証・見直し ・事務局職員に対する人事評価制度の導入	1-1【平成24年度計画】 ○教員の個人業績評価制度の検証・見直し ・教員の個人業績評価を実施するとともに、評価結果に係る分析、検証作業を行う。 ・上記分析、検証作業を受けて、評価方法や評価結果の給与への反映方法等について課題を把握し、必要に応じ見直し・改定を行う。 ○事務局職員に対する人事評価制度の導入 ・人事評価制度の導入に向け、他大学の導入状況調査等を実施し、評価制度の内容・問題点等について検討を行う。	1	【平成24年度の実施状況】 ○教員の個人業績評価制度の検証・見直し ・平成23年度実績分について、個人業績評価を実施し、その評価結果を給与(勤勉手当)へ反映させた。 ・第1期中期計画期間における評価制度の課題を検証し、これを踏まえ見直しを実施し、新評価制度を策定した。 ・新評価制度による、教員の自己評価(平成24年度における目標設定)を実施した。また各教員の目標設定内容について、学部長がすべて確認し、必要に応じて個別に指導を行った。 ○事務局職員に対する人事評価制度の導入 ・人事評価制度を導入している他大学の状況調査を実施した。 ・調査を基に導入に向けた評価制度の内容や問題点について学内で検討、協議を行い、人事評価制度の策定に着手した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		33
	3【危機管理体制の充実・強化】 危機管理や安全管理に関する全学的な体制を整備・充実するとともに、教職員の意識の向上を図る。また法令やガイドライン等を遵守した適正な法人運営を行う。 ・危機管理、安全管理の検証・改善・充実(研修、防災点検・訓練、災害時の危機管理整備など) ・各種規定の整備等による法令遵守の徹底	1-1【平成24年度計画】 ○危機管理、安全管理の検証・改善・充実(研修、防災点検・訓練、災害時の危機管理整備など) ・安全衛生管理に関する各種研修会、講習会等を充実させる。 ・「安全衛生マニュアル」及び「安全・危機管理マニュアル」を新入生、新規教職員に配付し、周知徹底を行う。 ・職場巡視で体制及び施設等の点検活動を行い、改善・改修等に役立てる。 ・関係部局との連携を深め、学内の安全衛生・危機管理の整備・充実を図る。 ・ICカード運用の構築を行う。 ○各種規定の整備等による法令遵守の徹底 ・各種規定の点検を行い、整備に努める。	1	【平成24年度の実施状況】 ○危機管理、安全管理の検証・改善・充実(研修、防災点検・訓練、災害時の危機管理整備など) ・4月「安全衛生マニュアル」及び「安全・危機管理マニュアル」を新入生、新規教職員に配布した。 ・7月に安全衛生に関する「毒劇物適正取扱説明会等」を実施した。 ・年度計画に従い職場巡視を実施した。 ・12月に消防訓練、救急救命講習会を実施した。 ・危機管理の整備充実のため、危機管理規程を制定した。 ・廃棄PCからの情報漏えいを防止するためPC廃棄マニュアルを作成した。 ・学内情報センターと財務管理班が連携し、ICカード利用方法や運用方法など様々な課題の洗い出しを行った。 ○各種規定の整備等による法令遵守の徹底 ・規程、規則の見直しを行い新規規程集を編纂した。また、規程・規則の制定・改廃に係る事務マニュアルを作成し、業務の効率化を図った。	B	【高く評価する点】 ・規程・規則の見直しを行い新規規程集の編纂及び事務マニュアルを作成するなど業務改善が図られた。 ・PC廃棄マニュアルを作成し、情報漏えい防止策を講じた。 【実施(達成)できなかった点】 ・ICカードの運用構築を含めた活用方法については具体的な検討が進まなかった。		34
		ウエイト総計	24年度 3			項目数計		24年度 3

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

該当なし

「業務運営」に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」</p> <p>大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。 収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。 経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。</p>
-----------------------	--

項目	実施事項	平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1 自己収入の増加 教育研究活動の活性化を図るため、外部資金の獲得に努める。	1【外部資金の積極的な確保】 研究・教育助成に関する公募情報の周知や応募の促進を図るとともに、大学の研究シーズを学外へ積極的に発信・還元することを通して、外部資金の獲得を促進する。 ○達成目標 ・外部資金獲得額：年8千万円以上	1-1【平成24年度計画】 ○外部資金の獲得の促進 ・科学研究費説明会を開催する。 ・科学研究費獲得のための講演会を新たに開催する。 ・知的財産権セミナーを開催する。 ・研究・教育助成に関する情報発信を行う。 ・学内研究者情報を網羅した冊子を作成し、研究機関、企業団体、行政機関等に配布する。 ○数値目標 ・外部資金獲得額：年8千万円以上	1	【平成24年度の実施状況】 ○外部資金の獲得の促進 ・7月10日にやずや食と健康研究所助成研究募集説明会(参加者28名)を開催した。 ・9月21日に科研費獲得セミナー「科研費獲得の方法とコツ」(参加者36名)を開催した。 ・9月26日、27日両日に科研費説明会(参加者39名)を開催した。 ・3月5日に知的財産権セミナー(参加者33名)を開催した。 ・国、助成財団等の研究・教育助成に関する情報を随時教員に電子メールにて配信した。 ・教員データブックを研究機関、企業、国・県・県内全市町村等関係機関に配布し、女子大の研究シーズを更に発信することにより外部資金の獲得を図った。 ○目標実績 ・外部資金獲得額：6,096万円	B	【高く評価する点】 ・科研費新規獲得率の向上を目指し、例年開催している科研費説明会に加え、科研費獲得のノウハウを持つ外部講師を招聘した科研費獲得セミナー「科研費獲得の方法とコツ」を初めて開催した。 【実施(達成)できなかった点】 ・外部資金獲得額が6,096万円と数値目標には達しなかった。	No.19「研究」	35
2 経費の節減 人件費の適正化を図るとともに、事務処理の効率化や学内施設の効率的利用を促進して、経費節減に努める。	1【人件費の適正化】 人員配置の見直しや事務処理の効率化を促進するなどして、人件費の適正化を図る。 ○達成目標 ・年度計画で設定	1-1【平成24年度計画】 ○人件費の適正化 ・業務内容や手順を見直し、適切な人事配置を図る。 ・昨年度に引き続き、プロパー採用試験を実施し、専門性を備えた人材の確保と併せ経費抑制を図る。 ○数値目標 ・時間外勤務手当の額については、23年度を超えないようできるだけ圧縮する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○人件費の適正化 ・事務の効率化を図るため各部局、班の業務状況を踏まえて適切な人事配置を行った。 ・専門性を備えた人材の確保と併せ経費抑制を図るため、プロパー採用試験を実施した。 ○目標実績 平成24年度時間外手当実績額：11,912千円(平成23年度：14,532千円、対平成23年度比の18%減)	A	【高く評価する点】 ・事務局の連絡会議等において、複数回に亘って時間外勤務の縮減を要請したことで、目標を上回る時間外勤務手当の削減を行った。 【実施(達成)できなかった点】		36

中期計画		平成24年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	<p>2【業務効率化等による管理経費の節減】</p> <p>新学部開設に伴う学生数の増加や、新校舎の建て替え等により、管理経費の増加が見込まれるが、事務処理の効率化や、学内施設の効率的利用を促進するとともに、省エネルギー活動を推進して、経費節減に努める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務処理の効率化や学内施設の効率的利用の促進 ・ごみ削減・リサイクル率の向上を図るなど省エネルギー活動の推進 ・光熱水費(基本契約電力目標の設定含む)、印刷経費、通信運搬費等管理経費の節減 <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度計画で設定 	<p>1-1【平成24年度計画】</p> <p>○事務処理の効率化や学内施設の効率的利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・経費削減に係る提案を学内より募集し、実施可能なものについては実施する。 <p>○ごみ削減・リサイクル率の向上を図るなど省エネルギー活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対し廃棄物処理の説明会開催やリサイクル意識の向上を促す等の取組みを行う。 <p>○光熱水費(基本契約電力目標の設定含む)、印刷経費、通信運搬費等管理経費の節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生数の増加等により電気使用量の増が見込まれるが、教室、研究室等の照明やエアコンの管理徹底等により電力量の節減を図る。 ・学生数の増等により印刷物配布資料(コピー枚数)の増が見込まれるが、電子メール等の電子媒体の活用等によりコピー代の節減を図る。 ・電子メールや宅配便の活用により通信運搬費の節減を図る。 <p>○数値目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・印刷物配布資料(コピー枚数):23年度同程度 ・通信運搬費:23年度同程度 ・電力使用量:23年度同程度 ・ごみ削減・リサイクル率:20%以上 	1	<p>【平成24年度の実施状況】</p> <p>○事務処理の効率化や学内施設の効率的利用の促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内に「経費節減プロジェクトチーム」を設置し、経費削減に係る提案を学内(教職員、学生)より募集した。その提案内容も踏まえ、節電パトロール隊を組織し校内巡視によって光熱水費の節減に取り組んだほか、カラーコピーの抑制等、印刷配付資料(コピー)の節減などに努めた。 <p>○ごみ削減・リサイクル率の向上を図るなど省エネルギー活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員に対し廃棄物処理の説明会を開催しリサイクル意識の醸成を図った上、学内LAN上に遊休物品等の情報を提供する掲示板を設置し再使用を促したほか、廃棄する紙類については再資源化を実施するなど学内のリサイクルシステムの構築を目指す取組を実施した。しかしながら紙類の再資源化については再資源化できない可燃物をはじめ全体的に廃棄物が増加したこともあり、リサイクル率は目標に至らなかった。 <p>○光熱水費(基本契約電力目標の設定含む)、印刷経費、通信運搬費等管理経費の節減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生数増により光熱水費の大幅増が見込まれたが、節減意識の向上に取り組んだ結果、電力使用量は目標を達成した。印刷物配付資料(コピー枚数)、通信運搬費については目標達成に至らなかったが、微増にとどめることができた。 <p>○目標実績</p> <p>コピー枚数:1,470,648枚(対平成23年度109.9%) 通信運搬費:3,154,970円(対平成23年度101.0%) 電力使用量:1,441,308kw(対平成23年度97.4%) リサイクル率:14.5%(平成23年度16.5%) ※リサイクル率=古紙回収量(kg)÷(総ゴミ回収量-公文書廃棄量)(kg)</p> <p>*参考:光熱水費 37,011千円(対平成23年度100.5%)</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学内にプロジェクトチームを設置するなど全学的・組織的な取組に着手した。 <p>【実施(達成)できなかった点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の発生抑制に向けた措置が不足していたため、廃棄物リサイクル率は目標に至らなかった。 	No.31「経費削減」	37
		ウエイト総計	24年度 3			項目数計	24年度 3	

【ウエイト付けの理由】(年度計画)

該当なし

「財務」に関する特記事項(平成24年度)

なし

年度計画項目別評価

中期目標 6. 評価及び 情報公開	「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」 (1) 評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。 (2) 情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。
-------------------------	---

中期計画		平成24年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号
項目	実施事項				評価	理由		
1 評価	教育・研究 その他大学 運営全般に ついての自 己点検・評 価を厳正に 実施すると ともに、県 や外部評価 の結果を大 学運営の改 善に反映さ せる。	1-1 【自己点検・評価等評価結果の大学運営への反映】 法人・大学運営の継続的な改善を図るため、自己点検・評価委員会の機能を強化し、実効性のある評価を実施するとともに、当該評価結果及び県評価委員会等外部評価の結果を業務改善に適切に反映する。	1	【平成24年度の実施状況】 ○平成23年度業務実績 ・6月の自己点検・評価委員会により自己評価を実施し、県評価委員会による評価結果と併せて9月にホームページ上で公表した。自己評価結果に基づき必要な業務の改善(個人情報保護説明会の実施等)を行った。 ○平成24年度計画 ・四半期毎(6月末、9月末、12月末)に業務の進捗状況について確認し、進捗に遅れがある計画(TOEFL対策等)については自己点検・評価委員会で今後の対応策を検討の上、改善に繋げた。また、平成24年度計画の実績や課題(TOEFL対策等)を踏まえ、平成25年度計画を作成した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		38
2 情報公開	大学の教育・研究活動や中期計画・年度計画等の法人情報をホームページ等を活用して積極的に公開するとともに、個人情報等の情報管理を徹底する。	1-1 【大学情報の公開】 公立大学としての透明性を高め、教育の質を向上させる観点から、学生や保護者はもとより、地域社会のニーズに対応した、教育・研究活動をはじめとする法人・大学の各種情報を積極的に公開していく。 ・法人・大学の各種情報の積極的な公開 ・法人・大学情報のデータベース化 ・情報管理の徹底	1	【平成24年度の実施状況】 ○法人・大学の各種情報の積極的な公開 ・大学ホームページ、携帯ホームページのタイムリーな更新はもとより、学内イベント(オープンキャンパス、学校見学会)を通じて大学の情報を積極的に広報した。 ・現在の公開情報に追加する情報について、他大学等を調査し、検討実施した。 ・教員の専門分野や研究概要、業績などの情報について大学ホームページにて公開するとともに、これらをまとめた冊子を作成し、関係機関に配布した。 ○法人・大学情報のデータベース化 ・学内情報のデータベース化の検討に当たり、まず、管理すべき情報の把握(基本情報、学生の現況、入学者の状況、留学の状況、授業料減免等)を行った。 ○情報管理の徹底 ・個人情報の適切な取り扱いについての情報を収集するため県が主催する個人情報保護に関する説明会に参加した。 ・9月26日に全教職員を対象に外部講師による「情報公開・個人情報保護制度と教職員の役割」の研修会を実施した。	B	【高く評価する点】 【実施(達成)できなかった点】		39
		ウェイト総計	24年度 2			項目数計		24年度 2

【ウェイト付けの理由】(年度計画)

該当なし

「評価及び情報公開」に関する特記事項(平成24年度)

なし

その他中期計画において定める事項

中期計画		年度計画			自己評価	
		計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)				
		区分	予算額(a)	決算額(b)		差額 (b)-(a)
		費用の部	2,051	1,836	▲ 214	-
		経常費用	2,051	1,836	▲ 214	
		業務費	1,865	1,661	▲ 204	
		教育研究経費	357	276	▲ 81	
		診療経費	-	-	-	
		人件費	1,507	1,384	▲ 122	
		一般管理費	186	175	▲ 10	
		(減価償却費 再掲)	(40)	(39)	(▲1)	
		臨時損失	-	-	-	
		収益の部	2,051	1,888	▲ 162	
		経常収益	2,010	1,888	▲ 121	
		運営費交付金収益	1,297	1,184	▲ 112	
		授業料収益	453	472	19	
		入学金収益	86	86	0	
		検定料収益	18	19	1	
		附属病院収益	-	-	-	
		受託研究等収益	14	4	▲ 10	
		受託事業等収益	7	7	0	
		補助金等収益	40	36	▲ 4	
		寄附金収益	16	11	▲ 4	
		資産見返運営費交付金等戻入	31	15	▲ 15	
		資産見返補助金等戻入	1	1	0	
		資産見返寄附金戻入	3	3	0	
		資産見返物品受贈額戻入	4	4	0	
		財務収益	0	0	0	
		雑益	35	38	3	
		臨時利益	-	-	-	
		純利益	▲ 41	51	93	
		前中期目標期間繰越積立金取崩額	41	-	▲ 41	
		総利益	-	51	51	

	2. 資金計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
		資金支出	2,387	2,384	▲ 2
		業務活動による支出	2,000	1,774	▲ 225
		投資活動による支出	41	18	▲ 22
		財務活動による支出	-	13	13
		設立団体納付金の支払い額	-	97	97
		翌年度への繰越金	345	479	133
		資金収入	2,387	2,384	▲ 2
		業務活動による収入	1,999	1,996	▲ 3
		運営費交付金による収入	1,328	1,323	▲ 4
		授業料等による収入	558	578	20
		附属病院収入	-	-	-
		受託研究等による収入	21	22	0
		補助金による収入	40	35	▲ 5
		その他収入	51	37	▲ 13
		投資活動による収入	0	0	0
		財務活動による収入	-	-	-
		前年度からの繰越金	386	387	0
II 短期借入金の限度額		1. 短期借入金の限度額 3億円 2. 想定される理由 運営交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし	-
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画		該当なし		該当なし	-
IV 剰余金の使途		決算において剰余金が発生した場合は、教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充てる。		平成23年度は剰余金による教育研究等改善目的積立金はなし。 教育研究の質の向上及び組織運営の改善に充当するための目的積立金の取崩はなし。	-
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項		該当なし		該当なし	-